

# COMSYS Group CSR REPORT 2017

コムシスグループCSRレポート





# 自己変革を続け、 未来の社会基盤づくりに 貢献していきます。

コムシスホールディングス株式会社  
代表取締役社長 **加賀谷 卓**

## 代表取締役社長就任にあたって

2017年6月よりコムシスホールディングスの代表取締役社長に就任いたしました。

コムシスグループは広く社会インフラ整備を行う“総合エンジニアリング企業”へと進化を遂げるべく、新しい事業分野への挑戦を続けています。この流れを加速させ、次のステージへとステップアップさせることが、新社長としての私の役割であると認識しています。大きな責任に身が引き締まる思いを感じると同時に、皆さまの期待に応えていく覚悟と決意を新たに、日々精進してまいります。

## 大きく変化する情報通信市場

今、情報通信分野では市場環境の変化の速度が加速しています。スマートフォンやタブレット端末の多様化・高機能化に伴い、トラフィックの大容量化に対応するためのモバイルネットワーク環境の構築が進められ、また、あらゆるものがインターネットにつながるIoTやAI(人工知能)などのICTを活用したイノベーションの進展と国土強靱化施策、環境エネルギー事業および東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた社会インフラ投資が期待されています。

コムシスグループは、通信建設事業はもとより、広く社会インフラの整備に携わる企業として、大きく変化する市場環境に対応することで持続的に成長していきたいと考えています。

## 事業を通じた社会貢献

日本では、さまざまな社会課題に直面しています。豊かな自然環境に恵まれているものの、ときとして自然災害発生により被害をもたらします。近年では東日本大震災、熊本地震をはじめとして、岩手県や北海道を襲った台風などにより通信設備などのインフラが寸断されるという事態が発生しました。そこでコムシスグループでは総合力を発揮して復旧工事に取り組み、いわゆる「普通の生活」を取り戻すための貢献をしています。

これらの取り組みに特に欠かせないのが、協力会社の存在です。コムシスグループがプラットフォームとなり、安心・安全や品質、環境などさまざまな側面で協力していくことで、より大きな価値を社会に提供することが可能になると考えています。

## 持続的に成長していくために

激しい変化に対応していくためには、「自律と自立」がカギになると考えています。社員の一人ひとりが自ら変化の潮流を読み、軌道修正を繰り返しながら課題の解決を目指します。高速でPDCAを回し、成果に結び付けていくことが、個人にとっても組織にとっても成長に欠かせません。

成長の次のステップに進んでいくためには、「健全な危機感」を持ち、リスクと常に向き合っていくことが重要です。安全や品質、コンプライアンスなど、あらゆる問題には予兆が存在します。これらから目をそらすことなく、危機感を持ってリスクの芽を摘み取った上で前進していくことが成長に不可欠です。

コムシスグループは、2023年度を計画の最終年度として、売上高4,000億円、営業利益300億円を達成するという中長期ビジョンを掲げています。お客様のご支援や、トップラインの拡大により新たな事業領域へのチャレンジを進めることで、この目標の前倒しでの達成が視野に入ってきました。これに慢心することなく、成長の鈍化リスクも念頭におき、2020年のさらにその先を見据えた新たなロードマップの策定に着手しました。グループ各社の強みを生かし、さらには連携を強化して総合力を発揮するための体制づくりや、ワークスタイル・イノベーションによる生産性の一層の向上に取り組んでまいります。

## 多様性とその統合

ICTを活用したワークスタイル・イノベーションでは、現状の業務を棚卸し、再定義していきます。定型化・手順化できる業務については、AIを活用した自動化・集約化・テレワークを進め、育児や介護などを背景に柔軟な働き方を求める労働力を活用するきっかけをつくることで労働力不足という課題の解決を図ります。

一方、高い付加価値が求められる業務についてはさらなるIT化を進め、マルチスキル化を支援する仕組みを整えます。これらにより、大幅な効率化や生産性の向上、労働時間の短縮やワークライフバランスの向上につなげ、多様な人財の確保に結び付くことを期待しています。

社会の全員が画一的な働き方をする時代はすでに終焉を迎えています。多様な背景を持った社員が柔軟に働き、一方で、対話を重ねながらコムシスグループの経営理念を共有していく。こうした「多様性とその統合」を重視していくことが、変化の激しい時代で生き残っていくうえでの強みになると考えています。

## コムシスグループの経営理念と4つの道しるべ

コムシスグループの経営理念とは、「時代をになう多様なインフラ建設」でお客様に選ばれ続ける企業を創ること、「豊かな生活を支える社会基盤づくり」で国と地域に貢献すること、たゆまない改革を続けさらなる企業価値の向上を目指すこと、の3つで構成されています。

この「あるべき姿」を、グループが一体となり、お客様、社会、株主およびグループ社員に価値を提供していく



ために、「人財」を中核に、「安心・安全の追求」「品質向上と環境への配慮」「事業を通じた社会貢献」を強く意識した事業活動を行い、これらを支える経営基盤であるガバナンス強化に努めていきます。創業より培われた企業文化や強みである「チャレンジ精神」「強固な経営基盤・財務基盤」「協力会社との強固なパートナーシップ」「技術とノウハウ」「M&A・アライアンスの強化」を発揮しながら、中長期ビジョンの実現にまい進しています。

コムシスグループでは、「事業を通じた社会貢献」をCSR活動の基本と考え、通信ネットワークを中心とする社会インフラによって人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりへの貢献を目指しています。その実現をより確実なものとするため、「4つの道しるべ」、すなわち「安心・安全の追求」「品質向上と環境への配慮」「人財」「グループイノベーション」をベンチマークに掲げています。「コムシスグループCSRレポート2017」においては、この「4つの道しるべ」に沿った観点からコムシスグループのCSRの取り組みを紹介することとしています。ぜひご一読いただき、忌憚ないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

## コムシスグループ経営理念



私たちコムシスグループは、グループ一体となり、  
外部の様々なプレイヤーとも強力な協業・連携を図りつつ  
経営理念を実現します

- ▶ 「時代をになう多様なインフラ建設」でお客様に選ばれ続ける企業を創ります
- ▶ 「豊かな生活を支える社会基盤づくり」で国と地域に貢献します
- ▶ たゆまない改革を続けさらなる企業価値の向上を目指します

社名	コムシスホールディングス株式会社 (COMSYS Holdings Corporation)												
設立日	2003年9月29日												
所在地	東京都品川区東五反田2-17-1 TEL.03-3448-7100 (代表)												
資本金	100億円												
連結売上高	3,341億円 (2017年3月期)												
連結経常利益	253億円 (2017年3月期)												
連結従業員数	10,224名 (2017年3月末日現在)												
単独従業員数	55名 (2017年3月末日現在)												
主要事業会社	<table border="0"> <tr> <td><span style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">日本コムシス</span></td> <td>日本コムシス株式会社 (以下日本コムシス)</td> </tr> <tr> <td><span style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 2px;">サンコム</span></td> <td>サンワコムシスエンジニアリング株式会社 (以下サンコム)</td> </tr> <tr> <td><span style="background-color: #2196f3; color: white; padding: 2px;">TOSYS</span></td> <td>株式会社TOSYS (以下TOSYS)</td> </tr> <tr> <td><span style="background-color: #00bcd4; color: white; padding: 2px;">つうけん</span></td> <td>株式会社つうけん (以下つうけん)</td> </tr> <tr> <td><span style="background-color: #ffc107; color: white; padding: 2px;">COMJO</span></td> <td>コムシス情報システム株式会社 (以下COMJO)</td> </tr> <tr> <td><span style="background-color: #9c27b0; color: white; padding: 2px;">CSS</span></td> <td>コムシスシェアードサービス株式会社 (以下CSS)</td> </tr> </table>	<span style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">日本コムシス</span>	日本コムシス株式会社 (以下日本コムシス)	<span style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 2px;">サンコム</span>	サンワコムシスエンジニアリング株式会社 (以下サンコム)	<span style="background-color: #2196f3; color: white; padding: 2px;">TOSYS</span>	株式会社TOSYS (以下TOSYS)	<span style="background-color: #00bcd4; color: white; padding: 2px;">つうけん</span>	株式会社つうけん (以下つうけん)	<span style="background-color: #ffc107; color: white; padding: 2px;">COMJO</span>	コムシス情報システム株式会社 (以下COMJO)	<span style="background-color: #9c27b0; color: white; padding: 2px;">CSS</span>	コムシスシェアードサービス株式会社 (以下CSS)
<span style="background-color: #e91e63; color: white; padding: 2px;">日本コムシス</span>	日本コムシス株式会社 (以下日本コムシス)												
<span style="background-color: #4caf50; color: white; padding: 2px;">サンコム</span>	サンワコムシスエンジニアリング株式会社 (以下サンコム)												
<span style="background-color: #2196f3; color: white; padding: 2px;">TOSYS</span>	株式会社TOSYS (以下TOSYS)												
<span style="background-color: #00bcd4; color: white; padding: 2px;">つうけん</span>	株式会社つうけん (以下つうけん)												
<span style="background-color: #ffc107; color: white; padding: 2px;">COMJO</span>	コムシス情報システム株式会社 (以下COMJO)												
<span style="background-color: #9c27b0; color: white; padding: 2px;">CSS</span>	コムシスシェアードサービス株式会社 (以下CSS)												

### 報告対象範囲

コムシスホールディングス株式会社および  
主要事業会社

### 報告対象期間

2016年度 (2016年4月～2017年3月) の取り組みについて報告していますが、2017年4月以降の活動や情報についても一部報告しています。

### 参考にしたガイドライン

- GRI (Global Reporting Initiative)  
「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」
- 環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
- ISO26000 (社会的責任に関する手引き)

### 次回発行予定

2018年9月

## CONTENTS

01	トップコミットメント	19	太陽光発電事業
03	経営理念・編集方針・CONTENTS	21	活動報告
04	コムシスグループの事業概要	21	マネジメント体制
04	コムシスグループのあゆみ	30	安心・安全の追求
05	コムシスグループの事業内容	35	品質向上と環境への配慮
06	コムシスグループの組織体制	44	人財
07	CSRマネジメント	53	事業を通じた社会貢献
12	特集1 被災した街に新たな息吹を ～通信インフラで被災地をよみがえらせる	63	財務ハイライト
16	特集2 コムシスグループが 創出するイノベーション	64	コムシスグループCSRのあゆみ

### 編集方針

「COMSYS Group CSR REPORT 2017」は、環境に配慮し、Webサイト (<http://www.comsys-hd.co.jp/>) を中心にPDFを活用した開示方法を採用しています。皆さまのご理解のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

本レポートは、コムシスグループのCSR (企業の社会的責任) に関する考え方や活動状況を、ステークホルダーの皆さまに分かりやすく報告するとともに、広くご意見をいただき、活動と開示の充実を図ることを目的として発行しています。2016年度は主に以下の取り組みを行いました。

- 特集1では、本業を通じた社会貢献の取り組み例として復興支援活動を報告
- 特集2では、グループイノベーションの取り組み例を報告
- グループ各社のCSR活動報告については、「マネジメント体制」「安心・安全の追求」「品質向上と環境への配慮」「人財」「事業を通じた社会貢献」の5つのカテゴリーに分類を変更し、報告
- GRIガイドライン G4に基づくマテリアリティのレビューを実施し、重要課題を更新

# コムシグループのあゆみ

コムシグループは、通信建設業界のリーディングカンパニーとして、通信インフラを支えることで社会の発展に貢献し、成長してまいりました。

## 情報ネットワークの進展

- 通信自由化にともなう通信サービスの多様化
- 通信回線のデジタル化など有線ネットワークの発達
- インターネットの急速な普及

### 2000年代

- DSLによるブロードバンドサービスの登場
- 第3世代移動通信システム(3G)のサービスが開始
- スマートフォンの登場、携帯電話「国民ひとり一台」時代
- DSLからFTTH(Fiber To The Home: 光ケーブルを個人宅まで引き込む方式)への転換

### 2010年代

- 第4世代移動通信システム(4G)の開始
- 通信機器同士が通信するM2M、モノがインターネットにつなげられるIoTの実現
- ICTの役割がコミュニケーションツールから付加価値を生む経営資源へ変容

### 2020年代

- IoT、ビッグデータ、AIなどによる経済貢献、新たな価値の創造
- 「社会全体のICT化」による社会システムの変革

#### サンワコムシエンジニアリング(株)

1947年設立  
電気通信建設工事を中心に通信インフラを支える。

#### 日本コムシ(株)

1951年設立  
わが国初の総合電気通信建設工事業者として日本の通信インフラを支える。

#### (株)TOSYS

1960年設立  
甲信越を中心に、電気通信建設工事業を展開し、甲信越の通信インフラを支える。

#### (株)つうけん

1951年設立  
北海道において電気通信建設工事を行い、北海道の通信インフラを支える。

2003年9月  
コムシホールディングス(株)誕生

2003年10月  
コムシシェアードサービス(株)設立。間接業務の高付加価値なサービスを展開。

#### コムシ情報システム(株)

コムシ情報システム(株)設立。主に情報システムの企画から運用サービスを展開。

2009年4月  
2010年10月  
(株)つうけんと経営統合

2007年3月期  
売上高  
3,365億円

2014年3月期  
売上高  
3,313億円

2017年3月期  
売上高  
3,341億円

202X年  
売上高(目標)  
4,000億円

2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2020 (年)

#### コムシグループの取り組み

「いつでも、どこでも、何でも、誰でも」インターネットをはじめとするネットワークにアクセス可能なユビキタス社会の実現へ貢献するほか、業務における生産性向上を目的として2005年から「コムシ式カイゼン」に取り組む。

災害に強いネットワーク構築やモバイルネットワークの高速化に貢献。また、太陽光発電などの再生可能エネルギー事業も拡大。通信建設業界のリーディングカンパニーとしてITツールの導入による生産性向上に取り組む。

5Gネットワーク構築に貢献するとともにIoT、AIやZEH\*など新たな事業分野の拡大に取り組む。

\* ZEH: ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス

## “つながりを支える”コムシスグループ

コムシスグループは、統括事業会社5社をはじめとする56社で構成しており、グループならではの強みを生かして、以下の4つの領域で事業を展開しています。



### NTT 設備事業



NTTグループ向けに、有線・無線ネットワーク構築における電気通信設備工事をを行っています。また、設備運營業務(保守・故障修理業務)も一部のエリアで受託しています。

#### 主要工事・サービス

- アクセス(NTT所外)  
光ファイバ等敷設工事 ほか
- ネットワーク(NTT所内)  
交換・伝送装置の設置配線 ほか
- モバイル  
携帯電話基地局・無線中継基地局建設工事 ほか

日本コムシス TOSYS つうけん

### NCC※設備事業



NTTグループ以外の電気通信事業者向けに有線・無線ネットワーク構築における電気通信設備工事、CATV工事、付帯設備工事をしています。

#### 主要工事・サービス

- NCC向け通信設備工事  
固定系・モバイル系
- CATV工事 ほか

※ NCC : New Common Carrier の略。

サンコム

### ICTソリューション事業



キャリア向け事業で蓄積したノウハウと最先端のネットワーク技術を融合させて、お客様の業務に最適なシステムインテグレーションの企画提案から保守サービスまで、IT分野のトータルソリューションサービスを提供しています。

#### 主要工事・サービス

- NI系ソリューション
- SI系ソリューション
- LAN・WAN工事
- Wi-Fi工事
- 各種ソフトウェア開発、受託
- 保守 ほか

日本コムシス サンコム TOSYS

つうけん COMJO

### 社会システム関連事業等



通信土木・一般土木工事および施設・ビルなどの電気設備の設計・施工をはじめ、ビル・倉庫・工場などの構築、さらに防災設備、太陽光発電システム・都市インフラビジネスなどの環境エコ関連事業を行っています。

#### 主要工事・サービス

- 通信土木・一般土木
- 一般電気設備
- 電線共同溝(C・C・BOX)
- 建築、建築付帯設備
- 環境・エコソリューション
- その他、リース・人材派遣

日本コムシス サンコム TOSYS

つうけん COMJO CSS

# コムシスグループの組織体制(2017年9月1日現在)

コムシスグループは、通信建設業界のリーディングカンパニーとして、全国の通信インフラを支えることで社会の発展に貢献し、成長してきました。

## コムシスホールディングス株式会社



### 日本コムシス株式会社

主にNTTグループを中心とした電気通信設備工事事業



### サンワコムシスエンジニアリング株式会社

主にNCCを中心とした電気通信設備工事事業



### 株式会社TOSYS

信越エリアにおける電気通信設備工事事業



### 株式会社つうけん

主に北海道エリアにおける電気通信設備工事事業



### コムシス情報システム株式会社

情報処理関連事業



### コムシスシェアードサービス株式会社

グループの事務共通業務(総務・人事・財務・給与・社会保険等)および派遣事業等

設立日	1951年12月20日
所在地	東京都品川区東五反田2-17-1
代表取締役社長	加賀谷 卓
資本金	100億円
従業員数 連結/単独 (2017年3月末現在)	5,164名/2,901名
売上高 連結/単独 (2017年3月期)	2,203億円/1,916億円
グループ会社	コムシスモバイル(株)、コムシスエンジニアリング(株)、ウインテック(株)、コムシス九州エンジニアリング(株)、(株)フォステクノ四国、通信電設(株)、日本海通信建設(株)、コムシスプロミネント(株)、コムシス北海道エンジニアリング(株)、(株)日本エコシステム、(株)日本ソーラーパワー、コムシスクリエイト(株)、東京舗装工業(株)、(株)カンドー、東京ガスライフバルカンドー(株)、コムシスネット(株)、コムシス東北テクノ(株)、コムシス通産(株)、(株)大栄製作所

設立日	1947年9月12日
所在地	東京都杉並区高円寺南2-12-3
代表取締役社長	坂本 繁実
資本金	36億2,471万円
従業員数 連結/単独	1,450名/705名
売上高 連結/単独	437億円/367億円
グループ会社	三和電子(株)、(株)エス・イー・シー・ハイテック、サンコムテクノロジ(株)

設立日	1960年1月23日
所在地	長野県長野市若穂綿内字東山1108-5
代表取締役社長	小川 亮夫
資本金	4億5,000万円
従業員数 連結/単独	1,076名/634名
売上高 連結/単独	268億円/203億円
グループ会社	(株)アルスター、(株)トーシス新潟、川中島建設(株)、チューリップライフ(株)

設立日	1951年4月2日
所在地	北海道札幌市中央区北4条西15-1-23
代表取締役社長	大村 佳久
資本金	14億3,293万円
従業員数 連結/単独	1,791名/883名
売上高 連結/単独	467億円/324億円
グループ会社	(株)つうけんアドバンスシステムズ、(株)つうけんアクティブ(株)つうけんアクト、つうけんビジネス(株)、(株)セントラルビルサービス、北海道電電輸送(株)、東亜建材工業(株)

設立日	2009年4月1日
所在地	東京都港区高輪3-23-14
代表取締役社長	青山 明彦
資本金	4億5,000万円
従業員数 連結/単独	532名/376名
売上高 連結/単独	99億円/82億円
グループ会社	コムシステクノ(株)

設立日	2003年10月1日
所在地	東京都品川区東五反田2-17-1
代表取締役社長	中嶋 龍史
資本金	7,500万円
従業員数 連結/単独	156名(単独)
売上高 連結/単独	37億円(単独)
グループ会社	

※ 売上高には、セグメント間の内部取引を含みます。

## 基本的な考え方

コムシスグループでは、情報化社会において、安心・安全・便利なネットワーク社会を構築し社会の隅々まで「当たり前」につながるネットワークを「下支えする」ことが役割であり、企業の社会的責任と考えています。「通信ネットワークによって人と人、人と社会がより豊かにつながる社会づくりに貢献」することをCSRの理念、「本業を通じた社会貢献」をCSR活動の基本と考え、CSR活動を推進しています。また、より広いインフラ整備を担うことから環境への配慮を行ない、地球環境と共存できる情報化社会づくりに貢献します。

社会の一員として、お客様、地域社会、株主の皆さま、社員など、多くのステークホルダーの皆さまから、信頼され、愛される企業を目指し、また持続的な成長を遂げるため、CSR活動に取り組んでいきます。

## 価値創造プロセス

コムシスグループにとって、CSR活動は価値創造を支える重要な要素です。「人財」を中核に「安心・安全の追求」「品質向上と環境への配慮」「事業を通じた社会貢献」を強く意識した事業活動を行い、これらを支える経営基盤であるガバナンス強化に努めています。

また、経営理念を拠り所とし、中長期ビジョンとして掲げる「事業の拡大」「人材リソースの最大活用」「構造改革の推進」の実現を目指します。4つの道しるべを設けることで、それぞれの目標に対し短期的なPDCAを回し、中長期ビジョン実現の後押しをしています。

## 価値創造プロセス

### 社会が抱える課題

- ・エネルギー問題
- ・自然災害によるインフラ破壊
- ・高齢化社会の到来
- ・ネットワークの脆弱性
- ・ネットワーク犯罪・事故の増加など

### 社会課題解決のために、コムシスグループが手がける事業領域

#### 無線ネットワーク領域

基地局の設置  
設置エリアの調査から工事後の保守まで

#### 無線ネットワーク領域

さまざまな技術やサービスを駆使してお客様のご要望に合わせた多様なソリューションの提供

#### 有線ネットワーク領域

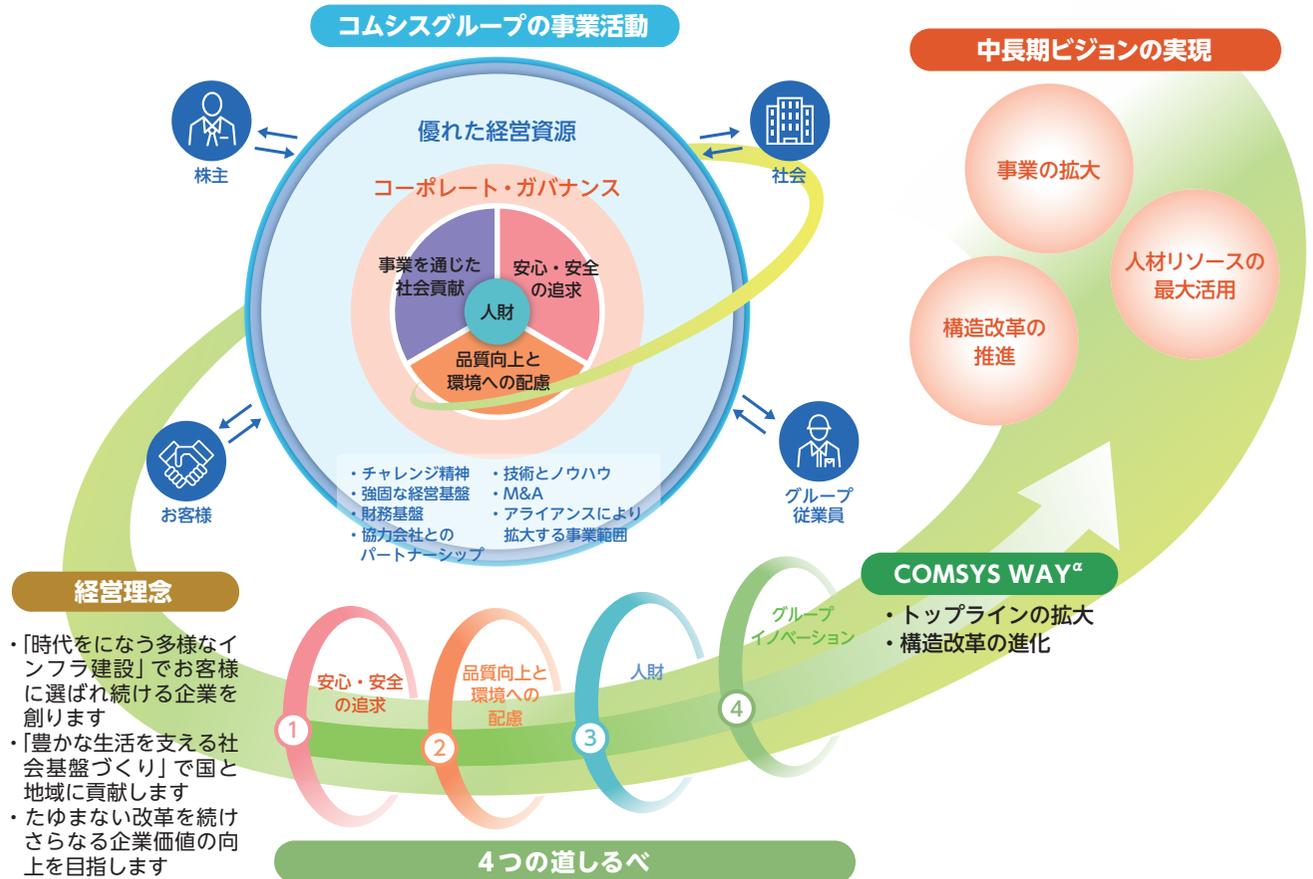
通信キャリアの通信設備構築、メンテナンス、各家庭への光ファイバの敷設・諸接続業務など

#### 社会システム領域

地震や台風、大雨などの自然災害を監視・予測するシステムや自然エネルギーを活用した発電システムの提供

### 提供する社会価値

- ・安定した通信サービスの提供
- ・ICTを活用した社会課題の解決
- ・自然災害による通信インフラの災害復旧
- ・老朽化した社会インフラの復旧・整備
- ・太陽光発電によるグリーンエネルギーの提供



## CSR推進体制

コムシスホールディングス(以下、当社)にCSR推進室を設け、グループのCSR活動を統括・管理しています。各統括事業会社の方向性や浸透施策を横断的に把握、共有することで、グループ全体に具体的な取り組みを展開し、グループ一丸となったCSR活動を推進しています。

また社長を委員長とし、当社および統括事業会社から選出された委員(主に取締役・理事)から構成される「CSR委員会」を設置し、グループ全体のCSRマネジメントの連携を図っています。委員会の開催は年一回です。CSR委員会では主に、コムシスグループのCSR活動に関する基本方針の策定や、グループのCSR活動に関する情報開示を一元的に推進しています。また、各統括事業会社における既存のCSRに関する委員会の活動を推進しています。

グループ各社では、それぞれCSR推進体制を整えており、各社のCSR推進を行う部署が各社の事業形態に見合ったやり方で取り組んでいます。一例として、日本コムシスではコーポレート・ガバナンス、コンプライアンス、リスクマネジメント、情報セキュリティ、情報開示、安全品質、環境配慮、環境保全、職場環境、社会貢献などをテーマとし、それぞれのCSRの取り組みについて、「経営ガバナンス部会」、「環境部会」、「職場・社会貢献部会」が中心となり、積極的に取り組みを進めています。

### ■ コムシスグループのCSR推進体制図



## コムシスグループのCSR重要課題

2013年にコムシスグループのCSR重要課題を選定しました。

### STEP1 CSR課題の特定

ISO26000(社会的責任に関する手引き)やGRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版(G4)」などのガイドラインのほか、東洋経済CSR調査などESGに関する外部評価や、社会を取り巻く持続可能性に関する課題も網羅的に考慮し、22のCSR課題を特定しました。

### STEP2 優先順位付け

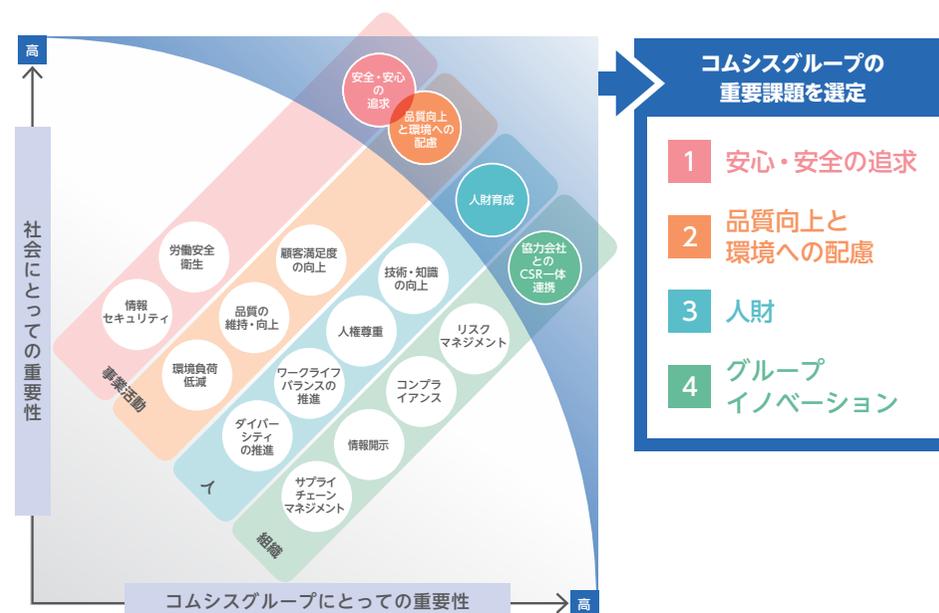
STEP1で特定したCSR課題について、「社会にとっての重要度」と「コムシスグループにとっての重要度」の2軸から優先順位付けを実施し、両軸で優先度の高いグループを「コムシスグループのCSR重要課題」として特定。

### STEP3 妥当性の確認

コムシスホールディングス社長を委員長とし、各統括事業会社の委員が集まる「CSR委員会」において、特定したCSR重要課題が「社会からの要請事項が反映されているか」、「コムシスグループの重要課題が網羅されているか」を十分検討し、最終的に決定しました。

### STEP4 レビュー

毎年1回、グループ各社の取り組みをCSRの観点から整理し、レビューを行っています。その内容をホームページ上に掲載するとともに、CSRレポートを発行することで、ステークホルダーの皆さまからご意見を頂戴する機会を設けています。



評価：○目標達成 △一部未達成 ✕未達成

ベンチマーク	評価	2016年度の取り組みに対する実績	2017年度に向けた課題および改善点	参照ページ
協力会社を含む「安全研修」実施率100% ※COMJO・CSS：対象外		<b>TOSYS</b> ・職長安全科研修：受講人数 自社9名、協力会社10名、実施率100% ・職長安全再修科：受講人数 自社45名、協力会社106名、実施率100% ・高所作業車運転(特別教育)：受講人数 自社9名、協力会社13名、実施率100% <b>つうけん</b> ・安全作業における教育および個人情報保護教育：受講人数 自社(派遣含む)1,086人、グループ・協力会社1,386人、実施率100%		

## 2 品質向上と環境への配慮

評価：○目標達成 △一部未達成 ✕未達成

ベンチマーク	評価	2016年度の取り組みに対する実績	2017年度に向けた課題および改善点	参照ページ
エネルギー消費(省エネ法)5年間で2011年度比実質5%削減	△	<b>日本コムシス</b> ・2016年度 電力使用量 11,253kWh ・2011年度比 1.2%削減 <b>サンコム</b> ・2016年度 電力使用量 1,178kWh ・2011年度比 28.0%削減 <b>TOSYS</b> ・2016年度 電力使用量 1,767kWh ・2011年度比 19.1%削減 <b>つうけん</b> ・2016年度 電力使用量 2,119kWh ・2011年度比 25.5%削減 <b>COMJO</b> ・2016年度 電力使用量 514kWh ・2011年度比 7.1%削減 <b>CSS</b> ・2016年度 電力使用量 105kWh ・2011年度比 2.5%増加 ※2015年4月にビルを移転。2011年当時と現在ではビルが異なる	新たなエネルギー消費に関する目標の設定を行い、継続して省エネルギー対策に取り組む。	P.41
古紙リサイクル率90%以上	○	<b>日本コムシス</b> ・古紙リサイクル率 96.0% (目標達成) <b>サンコム</b> ・古紙リサイクル率 100.0% (目標達成) <b>TOSYS</b> ・古紙リサイクル率 100.0% (目標達成) <b>つうけん</b> ・古紙リサイクル率 92.9% (目標達成) <b>COMJO</b> ・古紙リサイクル率 98.0% (目標達成) <b>CSS</b> ・古紙リサイクル率 95.0% (目標達成)	引き続き、全社で継続して古紙リサイクル活動に努める。	P.42

## CSR重要課題「4つの道しるべ」取り組み状況

コムシスグループでは、2013年に選定した4つの重点課題「4つの道しるべ」に沿った中期的なCSR目標を設定し、達成に向けて活動を推進しています。

ここでは、2016年度の取り組みについてご紹介します。

### 1 安心・安全の追求

評価：○目標達成 △一部未達成 ✕未達成

ベンチマーク	評価	2016年度の取り組みに対する実績	2017年度に向けた課題および改善点	参照ページ
労働災害発生度数率2015年度未済 ※COMJO・CSS：対象外	✕	<b>日本コムシス</b> 2015年度 0.00 2016年度 0.47 <b>サンコム</b> 2015年度 0.67 2016年度 0.00(目標達成) <b>TOSYS</b> 2015年度 0.66 2016年度 0.00(目標達成) <b>つうけん</b> 2015年度 0.51 2016年度 1.04	引き続き、労働災害発生防止に努める。	P.34
情報セキュリティ事故0件	△	<b>日本コムシス</b> 2015年度 0件 2016年度 0件 <b>サンコム</b> 2015年度 0件 2016年度 0件 <b>TOSYS</b> 2015年度 0件 情報漏えいには至っていないがインシデントが発生してしまった 2016年度 0件 情報漏えいには至っていないがインシデントが発生してしまった <b>つうけん</b> 2015年度 0件 2016年度 1件 <b>COMJO</b> 2015年度 4件 2016年度 3件 この他、情報漏えいには至っていないがインシデントが発生してしまった <b>CSS</b> 2015年度 0件 2016年度 1件	引き続き、情報セキュリティ事故防止に努め、情報漏えいには至らないインシデントの数も0件になるよう努める。	P.25
協力会社を含む「安全研修」実施率100% ※COMJO・CSS：対象外	○	<b>日本コムシス</b> ・高所作業者訓練(操作訓練および車両設置方法)：受講人数1,874名、実施率100% ・昇降社訓練：受講人数6,749名、実施率100% <b>サンコム</b> ・情報セキュリティ研修(上期・下期 年2回実施)：受講人数(協力会社を含む)上期2,597名、下期2,621名、実施率100% ・職長研修(年22回開催)：自社受講人数50名、協力会社受講人数159名、実施率100%	引き続き、グループ会社・協力会社を含め、各種研修を実施し、安全に努める。	P.25 P.32-33 P.45-46

ベンチマーク	評価	2016年度の取り組みに対する実績	2017年度に向けた課題および改善点	参照ページ
改善提案・VE提案の質の向上	○	<p><b>日本コムシス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2016年度 メモ提案(上級提案数)312件</li> <li>QC活動に加え、全社で5S活動を開始</li> <li>一般社団法人情報通信エンジニアリング協会よりSKY選奨として1件受賞</li> <li>NTTドコモ様よりVE提案21件が全国採用、16件が地域採用</li> </ul> <p><b>サンコム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2016年度 サンコム式カイゼン：提案件数2,876件(提案実施2,158件、提案のみ718件) ※1人あたりの提案件数 4.4件</li> </ul> <p><b>TOSYS</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般社団法人情報通信エンジニアリング協会よりSKY選奨として2件受賞</li> <li>新規取り組み3件：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①D環改良型安全带</li> <li>②中間接続工法の適用拡大</li> <li>③短尺突出し金物の納入形態の変更</li> </ul> </li> </ul> <p><b>つうけん</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>改善に関わる「開発パートナー制度」</li> <li>一般社団法人情報通信エンジニアリング協会よりSKY選奨として3件受賞</li> <li>VE提案4件：                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①仮支柱の簡易設置用治具の開発</li> <li>②E8心モジュール「T」保留心線取直し変更の提案</li> <li>③光トレルの電動化の提案</li> <li>④マルチ配線フリース「S」適用拡大の提案</li> </ul> </li> </ul> <p><b>COMJO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現場改善活動                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①各部門単位の取り組み状況を月1回戦略会議で報告</li> <li>②事務局が現場を訪問し、改善活動をフォロー</li> <li>③半期ごとに「現場改善活動発表会」を開催</li> </ul> </li> </ul> <p><b>CSS</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>カイゼン発表大会を年2回、カイゼン活動報告を年6回実施</li> </ul>	引き続き、全社で継続して改善提案・VE提案の質の向上に努めるほか、モチベーションアップにつながるよう、各種表彰されるような取り組みにも力を入れて取り組む。	P.36-37
		全社、積極的に改善提案を実施。日本コムシス・TOSYS・つうけんのSKY選奨受賞など、各社とも現場のモチベーションアップにつながる工夫がなされた。		

### 3 人財

ベンチマーク	評価	2016年度の取り組みに対する実績	2017年度に向けた課題および改善点	参照ページ
時間外労働の効率化		<p><b>日本コムシス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>労働時間など改善設定会議の定期開催(四半期毎)</li> <li>長時間労働が3カ月平均80時間以上の社員は、チェックリストを実施</li> <li>高ストレス者は、産業医面談を実施</li> </ul>		

ベンチマーク	評価	2016年度の取り組みに対する実績	2017年度に向けた課題および改善点	参照ページ
時間外労働の効率化	○	<p><b>サンコム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>週2回/ノー残業DAY(毎週水曜日と金曜日)の実施</li> <li>有給休暇促進のため、プリッジホリデイ取得を推奨</li> <li>「時間外勤務管理命令表」の活用</li> <li>長時間時間外労働者に対する産業医面談：単月100時間以上、2カ月平均80時間以上の時間外勤務を行ったものに産業医面談を実施</li> <li>健康管理室の開催：本社にて月3～4回開催</li> </ul> <p><b>TOSYS</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定時退社日の設定を継続実施：毎週水曜日と毎月10日(安全誓いの日)</li> <li>産業医面談の実施：時間外労働の月45時間以上を3カ月連続で行っている者に対して実施</li> </ul> <p><b>つうけん</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎週水曜日の時間外自粛日の設定(定時退社日)</li> <li>時間外月50時間以上で2回以上の連続者に対する産業医面談の実施</li> <li>36協定の勉強会の実施(13カ所で実施)</li> </ul> <p><b>COMJO</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定時退社日の設定：原則、毎週水曜日</li> <li>産業医面談の実施：単月100時間越え、3カ月80時間越え、深夜時間3カ月50時間越えの長時間時間外労働者に対して実施</li> </ul> <p><b>CSS</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>定時退社日の設定：水曜日などを定時退社日に設定</li> <li>時短プロジェクト：「月次幹部会議」にて時間外労働①月30時間超、②年間累計時間の管理、③年休取得などの原因究明と対策実施を行いモニタリングを継続</li> <li>衛生委員会：時間外労働と年休取得状況を確認</li> </ul>	引き続き、定時退社デーの継続実施に努め、時間外労働の削減に努める。また、仕事の効率化のために「ワークスタイルイノベーション」を実施し、仕事によってはIT化を進め、さらなる効率化を図る。	P.51
ダイバーシティマネジメントの推進	▲	<p><b>日本コムシス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月、女性活躍推進PTを発足。5グループに分かれ、全社員意識調査により明らかになった課題の分析・検討を実施。</li> <li>女性活躍推進法に基づく行動計画進捗よく状況2017年度新卒採用者女性比率 8.2%、女性管理職 5名</li> <li>障がい者雇用に向け業務の切り出しの実施。求人票をハローワークへ提出。障がい者雇用率は2015年度の1.95%から2016年度は1.69%に減少。</li> </ul> <p><b>サンコム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用の促進：サンコム8名(法定目標人数比率：▲1名)</li> <li>女性活躍推進PTの発足</li> <li>女性活躍推進法に基づく行動計画進捗よく状況2017年度新卒採用者女性比率 15.0%</li> </ul> <p><b>TOSYS</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者雇用の促進：現状9名、雇用率2.11%</li> <li>女性活躍推進法の施行開始に伴う一般事業主行動計画の策定 採用実績：2015年度8名(1名)、2016年度9名(2名)、2017年度13名(3名) ※( )内は女性人数</li> <li>女性活躍推進法に基づく行動計画進捗よく状況2017年度新卒採用者女性比率 23.1% (目標達成)</li> </ul>	引き続き、女性活躍についての取り組みを進め、PTを発足した会社については活発に活動し、取り組みの促進につなげる。「ワークスタイルイノベーション」の実施により、障がい者雇用の向上と多様な人材の活用を図る。	P.49-51

ベンチマーク	評価	2016年度の取り組みに対する実績	2017年度に向けた課題および改善点	参照ページ
ダイバーシティマネジメントの推進		<p><b>つうけん</b></p> <p>「女性活躍推進法」の推進として以下を実施：                      ・会社役員と女性社員との対話の実施                      ・女性育成プログラムの推進（アンケートによる意見集約の実施）                      ・女性活躍推進法に基づく行動計画進捗状況                      2017年度新卒採用者女性比率13.0%</p> <p><b>COMJO</b></p> <p>・女性の新規採用率を20%以上に拡大                      ・規程改定により、育休の延長期間拡大</p> <p><b>CSS</b></p> <p>・女性の積極的な登用（出向者含む）                      女性従業員数98名/170名（全従業員数）、女性の管理職11名、プロジェクトリーダー14名</p>		
研修カリキュラムの完全履行	△	<p><b>日本コムシス</b></p> <p>・階層別研修（事前学習、集合研修）：対象者数826名、受講者数826名、履行率100%</p> <p><b>サンコム</b></p> <p>・新入社員研修（4/1～実施）：対象者数20名、受講者数20名、履行率100%                      ・フォローアップ研修（1年目）3回・各3日間：対象者数23名、受講者数23名、履行率100%                      ・フォローアップ研修（3年目）2回・各3日間：対象者数20名、受講者数20名、履行率100%                      ・中堅社員研修（3日間）：対象者数23名、受講者数23名、履行率100%                      ・新任部長・支店長研修（1日）：対象者数4名、受講者数4名、履行率100%</p> <p><b>TOSYS</b></p> <p>・管理者研修：対象者数135名、受講者数127名、履行率94%</p> <p><b>つうけん</b></p> <p>・新入社員研修：対象者数11名、受講者数11名、履行率100%                      ・主任技術者研修（ブラッシュアップ）：対象者数10名、受講者数10名、履行率100%                      ・入社3～4年目社員フォローアップ研修：対象者数16名、受講者数16名、履行率100%                      ・マネジメント研修                      ▶組織長など：対象者数11名、受講者数11名、履行率100%                      ▶管理者フォローアップ：対象者数14名、受講者数14名、履行率100%                      ▶一般社員：対象者数64名、受講者数64名、履行率100%                      ・評価者研修：対象者111名、受講者数111名、履行率100%</p> <p><b>COMJO</b></p> <p>・新規採用者基礎研修（ビジネスマナーなど）：対象者数13名、受講者数13名、履行率100%                      ・新人研修（システム構築など）：対象者数13名、受講者数13名、履行率100%                      ・経営リーダー研修（経営リーダーの役割）：対象者数2名、受講者数1名、履行率50%</p> <p><b>CSS</b></p> <p>・入場者研修：対象者数73名、受講者数73名、履行率100%                      ・ISMS研修（年1回必須）：対象者 本社全社員、履行率100%                      ・個人情報保護MS研修（年1回必須）：対象者 全社員、履行率100%</p>	引き続き、全社、研修カリキュラムの完全履行を目指すとともに、諸事情により履行できなかった者に対するフォローアップに努める。	P.45-46

#### 4 グループイノベーション

ベンチマーク	評価	2016年度の取り組みに対する実績	2017年度に向けた課題および改善点	参照ページ	
トップラインの拡大（新規事業開拓）	○	<p><b>日本コムシス</b></p> <p>・PNF POWER株式会社への出資                      太陽光・バイオマスEPC案件の受注拡大                      ・エネマネ事業者としてエネルギーマネジメントシステム提案                      照明、空調、電気設備の省エネ化に向けたシステム提案                      ・Skype for Business クラウドPBX向けサービスの全国展開                      マイクロソフト社との連携強化                      ・メガソーラー事業は2016年3カ所（那須塩原市太陽光発電所・安曇野太陽光発電所）、全14カ所稼働                      ・カンダーの完全子会社化</p> <p><b>サンコム</b></p> <p>・太陽光発電設備工事                      ・東名高速道路LED化工事                      ・小形風力発電事業</p> <p><b>TOSYS</b></p> <p>・Skype for BusinessクラウドPBX向けサービスの全国展開                      マイクロソフト社との連携強化</p> <p><b>つうけん</b></p> <p>・つうけん光サービスの提供                      ・引越し受付センターの開設：グループ会社の電電輸送を引越しなどの受付窓口としてグループ内の対応を一元化</p> <p><b>COMJO</b></p> <p>・官公庁系や金融系などの新たな事業分野に拡大</p>	既存事業内での新たな受注に加え、新規分野として小形風力発電事業を開始。また、M&Aではカンダーの完全子会社化を実施。勢力的にトップラインの拡大に努めた。	デジタルトランスフォーメーション分野、バイオマス関連の施工（EPC・IPP）、小形風力発電事業、高速道路・農業土木事業など多岐に渡る分野において、さらなるトップラインの拡大を図る。	P.12-13 P.18-20 P.22-23
構造改革の進化によるさらなる利益率向上	○	<p><b>日本コムシス</b></p> <p>・コムシスホールディングス間要員流動の活性化                      繁忙支援、育成、受注拡大に向けた要員流動                      ・働き方改革によるテレワーク導入を検討開始                      ・連結子会社との一体運営の強化                      東京舗装工業など協力会社マネジメントシステムの強化                      新規連結子会社のIT武装化                      ・九州エリアの事業所を集約し「福岡テクノステーション」を建設                      ・札幌オペレーションセンターを開設</p> <p><b>サンコム</b></p> <p>・2本部制による営業・施工一体の組織改編</p> <p><b>TOSYS</b></p> <p>・グループ会社との一体的運営徹底：6社9組織が統合し中信エリアの重要拠点として「TOSYS松本ビル」始動、効率化推進</p> <p><b>つうけん</b></p> <p>・効率化の推進：Pエリアの安定化に向けた工程対策の実施                      ・ドコモ事業に関わる改善提案の活性化による品質向上：VE提案15件（計画15件）                      ・公共工事における品質向上：発注者からの指摘事項0件（受注13件）                      ・つうけんグループを集約する「つうけん室蘭ビル」を建設</p> <p><b>COMJO</b></p> <p>・プロジェクト管理の徹底：プロジェクト管理プロセス要領、開発要領などのルールに則り、プロジェクトを遂行し、品質改善と利益率向上を実現</p>	各社必要に応じ、事業所の集約や組織改編を行い、グループ会社との一体運営の強化を進めた。これらを通じ、人件費や施設費における利益率が向上し、仕事面においても効率が上がることで利益率の向上に貢献した。	引き続き、各社事業構造の見直しを行い、事業所の集約や組織改編を推進する。またグループ会社との一体運営の強化を進めることで、利益率の向上を図る。	P.18-20 P.22-23 P.37 P.51

# 被災した街に新たな息吹を

## ～通信インフラで被災地をよみがえらせる

自然災害が発生しやすい国土といわれている日本。

近年も、東日本大震災、熊本地震をはじめ、岩手県や北海道を襲った大きな台風などが各地に甚大な被害をもたらしました。

復興途中の被災地もあり、以前の生活を取り戻せていない方々が、いまだにいらっしゃいます。

コムシスグループは、これらの方々の生活を取り戻すべく、被災地に対する復興支援を継続して行っています。



### 取り組み

## 01 復興への決意を胸にした 6年間基盤・アクセス工事を担う

日本コムシス

TOSYS

つうけん

あの東日本大震災から6年が経過しました。被災した街の再建に向けた復興計画が各自治体で策定され、復興工事は現在ピークを迎えています。コムシスグループは、建物や道路などの土台を整える基盤工事および通信網の構築や伝送路の整備などのアクセス工事を担い、新しい街のインフラづくりに尽力しています。

津波により壊滅的な被害をうけた宮城県石巻市。損壊した建物や道路、なぎ倒された電柱、分断された電線、街のライフラインはすべて機能を失いました。これらの元の姿を取り戻すべく、日本コムシス、TOSYS、つうけんは共同で「コムシスJV石巻事務所」を設置し、基盤工事からアクセス工事までを一手に担っています。このような大規模な工事は、大手建設会社と協力して実施するケースが多く、高度な知識と折衝能力が求められます。震災発生から現在まで、資材・人手不足など大きな壁を、復興にかける思いと培ってきた経験・技術力で乗り越え、道路や住宅などの生活基盤再建に貢献しています。

宮城県女川町にも、凄まじい津波は山間の集落にまでおし寄せ、被害をもたらしました。復興計画に基づく道路の拡張、電気・ガス・水道などの新設に伴い、コムシスグループはケーブル・電柱などの通信設備の移転を行っています。人々の生活におい

て必要な通信回線を確実につなぐためには、高度な技術と細心の配慮が必要です。道路整備が完了しなければ移転できないため、工事は部分的に進めるしかありませんが、着実に復興に近づいています。

引き続き、コムシスグループは一日も早い被災地の復興を目指して取り組んでいきます。



日本コムシス・TOSYS・つうけんの  
JV拠点「コムシスJV石巻事務所」



### 被災した1軒1軒を訪問し、電話回線を復旧

「電話は通じますか？」震災発生から1カ月は、津波に流されずにすんだ家屋の一軒一軒を回り、復旧に尽力しました。忘れられないのは、呆然とただ一人座り込むお年寄りの女性を訪ねたときです。大切な人を亡くし、電話どころではなかったのでしょうか。かけるべき言葉をのみ込み、それからは残っている家にはすべて回線を引きました。東北と日本のために復旧工事に携われたことは私の誇りです。



日本コムシス NTT事業本部 アクセスシステム部 首都圏アクセス事業部門  
担当部長 風間 広司

## J2 津波の恐れがない街づくり

日本コムシス

海に面している宮城県東松島市の野蒜(のびる)地区は、通信設備から線路に至るまで、すべてが津波に飲み込まれてしまった街です。住民の方々が津波に怯えることなく安心して生活できるよう、高台に街ごと移転させる大規模工事が施工されました。日本コムシスは、丘陵地帯を切り拓く造成工事のうち電話工事、高台移転後の電柱の新設工事と通信事業者の局舎移転を担当しました。山を切り崩した土地柄、岩盤地盤の粉碎作業には多大な労力がかかり、泥土岩の急坂における作業は、雨天時には特に安全面で細心の注意が必要でした。通信事業者の局舎の移転という前例のない高度な工事に対しても、日々の現場で蓄積してきた英知を集結し完工しました。

現在、この野蒜地区には、電柱と住宅が立ち並び、新しい街の息づかいが聞こえ始めています。



施工前の野蒜地区の高台



施工後の野蒜地区の高台



### 現場で鍛えた勘と技術力で局舎移転を完工

高度成長期に多かった通信事業者の局舎移転工事は、この30～40年は保守作業がメインで、誰も経験したことがありません。しかし手探りの状態の中、これまでの現場で鍛えぬいた勘と技術力で、無事完工までこぎつけました。

まだ復興の実感は持っていないのが正直なところですが、それでも、私たちが一から街づくりに携われたことは意義があると感じています。復興工事に尽力した若手社員が「自分たちがつくった街だ」と思えるくらい、復興を実感できる日が早く来ることを願っています。



日本コムシス NTT事業本部 アクセスシステム部 アクセス推進部門 部長 菊池 文孝

## J3 「家に帰りたい」願いを叶えるために

日本コムシス

サンコム

福島第一原子力発電所の事故で、避難指示区域に指定された福島県飯館村。2016年6月に避難指示解除が決定し、おおよそ8カ月後には避難している住民の方々の帰還が可能になりました。通信インフラは、人々が生活する上で欠かすことができない社会基盤の一つです。サンコムと日本コムシスは、住民の方々が帰還するまでに、通信インフラを整備し、安心して暮らすことができる環境づくりに取り組みました。

工事車両には放射線量計が常備され、人の気配がなく、工事現場付近に除染廃棄物が積み上げられている特殊な状況下での作業となりました。弱電化エリアの解消を目的とする工事であることから、作業中は携帯電話などで連絡を取りにくいことが想定されました。そのため着工準備を入念に行い、協力会社とともに一つ一つの工程を綿密に確認するなど、最小限のコミュニケーションで作業を進められるよう工夫し、予定通り、住民の方々が懐かしい故郷へ帰還することができました。

日本コムシスでは、帰宅困難区域である福島県双葉町における通信事業者の通信設備の更改工事も行っています。

今後も、早く故郷に帰りたいと願う方々が安心して生活できるよう通信インフラを整備し続け、復興に貢献していきます。



鉄塔の養生作業をする作業員



工事現場付近の除染土仮置場



タイベックスーツを着用した作業員

取り組み



## 地震発生直後の極限状態で ケーブルをつなげる使命を全うする

日本コムシス

サンコム

2016年4月、熊本地方で発生した地震は最大震度7を観測し、山間部も含め広範囲にわたり通信が不通になる事態が発生しました。

地震により、高速道路が損壊し、敷設されている光ケーブルの5カ所以上が損傷しました。揺れ続ける高速道路上で、新たに光ケーブル約9kmの敷設を行い、通信を復旧させるのがコムシスグループの使命です。

地震発生直後は、余震が続いており、道路は隆起などで通行止めが多く、社員、協力会社やその家族の安否情報も十分に収集できない状況でした。いわば作業員も被災者の一人であり、不安や家族を心配する気持ちを拭いきれない中で、安全確保を最優先とし、昼夜を問わず復旧作業に努めました。



高速道路上での光ケーブル復旧作業



地震により傾いた基地局



最も被害の大きかった益城町木山地区の様子



## 災害発生直後の極限状態。 作業員の安全確保と通信インフラの復旧に奮闘

高速道路上の通信設備復旧のために、事務所から現場に作業指示をしながら、作業員の食糧運搬や交代要員の手配をするという役割を担っており、作業員全員が安全に工事を終えることに、責任を重く感じていました。自分たちの建物が地震で水没しているにもかかわらず、復旧に協力したいと連絡をくださった協力会社もあり、作業員は仮眠を取りながら、一刻も早い復旧に向けて作業を行いました。大きな本震が起こったのは、彼らの疲労がピークに達していたときです。安全のために撤退させるべきか、復旧を急ぐべきか、大きな壁にぶつかりましたが、サンコム一丸となって取り組んだことで、選択肢を広げることができ、適切な対応ができました。作業員やその家族の皆さまにはとても感謝をしています。



サンワコムシスエンジニアリング 九州支店 エンジニアリング部  
フィールドネットワーク部門  
部門長 松村 英明

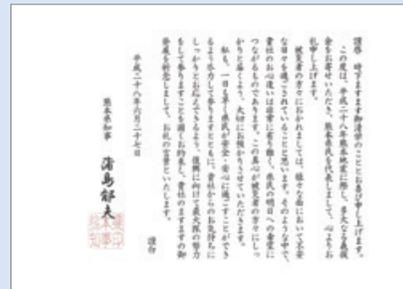
トピック

## 熊本災害義援金への寄付

日本コムシス つうけん

日本コムシスでは、全国の社員から寄せられた義援金に、マッチングギフト制度によって会社からも同額を加え、2016年5月に総額5,386,000円の義援金を熊本県に全額寄付しました。熊本県からは義援金に対する御礼状をいただきました。また、つうけんグループでも社員全員から支援金を募り、総額1,158,000円を、日本赤十字社が行っている「平成28年熊本地震災害義援金」に寄付しました。

熊本県知事より  
御礼状をいただきました



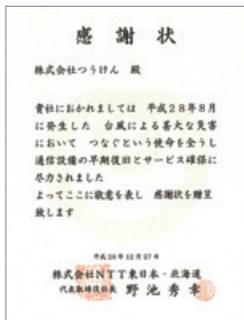
# J5

## 観測史上初の台風が北海道を直撃 復旧に向けて全力を尽くす

つうけん

2016年8月下旬、台風が北海道地方や東北地方に上陸し、各地で増水による川の氾濫や橋梁流失、路盤流出、盛土崩壊などが発生しました。特に北海道においては観測史上初めての台風で、インフラや農業に多大な損害を及ぼしました。

つうけんは、北海道に本社を構えており、事業所は北海道の全域にあります。道路・橋梁崩壊、土砂崩れ、倒木などにより、電柱の倒壊や通信ケーブル断が発生したため、15カ所で復旧工事が必要となりました。つうけんはその復旧活動に取り組んでおり、2017年4月現在で3カ所の本復旧が完了しています。台風の傷跡は大きく、苫小牧の日高日勝峠などは道路の整備自体が未了の地域もあるものの順次復旧していく予定です。北海道地方では経験したことがないような台風であるため、作業は手探りで困難を伴いますが、被災地で生活をしている方々に通信インフラを通じて安心をお届けできるよう、つうけん一丸となって取り組んでいます。



NTT東日本-北海道様より感謝状をいただきました



橋が崩落した朗根内美瑛(旭川)



キャタピラ車で現場に向かう様子



道路が崩壊した大雪 天人峡(旭川)

# J6

## 立ち入り困難地域での復旧作業

日本コムシス

TOSYS

北海道地方を襲った台風は、岩手県太平洋沖にも上陸し、岩手県岩泉町や久慈市にも甚大な被害をもたらしました。

日本コムシスとTOSYSは、通信事業者からの要請を受け、即座に久慈市周辺に向かい、全国から応援に駆け付けた総勢62名の作業員で、復旧作業にあたりました。至る所で道路が崩壊し、岩がむき出しとなっている現場は、多くの倒木が電柱やケーブルに覆いかぶさり、非常に危険な状態でした。

まず、倒木の伐採から始まり、倒れた電柱の撤去や急斜面での電柱の垂直化、川に降りての建柱作業などを行わなくてはなりません。これらの作業後に、ようやくケーブルをつなぐ作業が可能となりました。

チームが一つになって協力し合うことで、立ち入り困難で過酷な現場にもかかわらず、およそ1カ月で復旧工事を完了させました。日本コムシスとTOSYSは、この災害復旧支援への功績により、NTT東日本様から感謝状をいただきました。



NTT東日本様より感謝状をいただきました



山奥に向かう作業員



電柱、ケーブルに覆いかぶさる樹木

# コムシスグループが 創出するイノベーション

コムシスグループは、社会が抱える課題の解決に向けて、コムシスグループが守り続けている通信インフラを軸に、社会の人やモノをつなげ、新たなイノベーションを創出しています。



## 取り組み **U1** いつでもつながる。どこでもつながる。 新たな働き方を支えるテレワークシステム

日本コムシス

TOSYS

日本における人口の増加率は、高度経済成長期をピークに緩やかに減少しつつあり、2005年には統計を取り始めて以来、初めて人口が減少しました。特に労働力人口の継続的な減少は、日本の未来に危機感を与えています。その背景には少子高齢化が進み、高齢者の介護や子育てと仕事を両立しにくい社会環境が一因にあげられます。

2017年3月に日本コムシスとTOSYSが、日本マイクロソフト株式会社(以下、マイクロソフト)との連携により、全国に向けて展開を開始したクラウドPBX<sup>※</sup>サービスは、多様なワークスタイルへの柔軟な対応を可能にする画期的なサービスです。

TOSYSは従来より、マイクロソフトのExchangeやSharePointを活用したクラウドサービス「Livestyle」を提供しています。サービス範囲を、マイクロソフトのコミュニケーションプラットフォーム(基盤)であるSkype for Business Onlineに

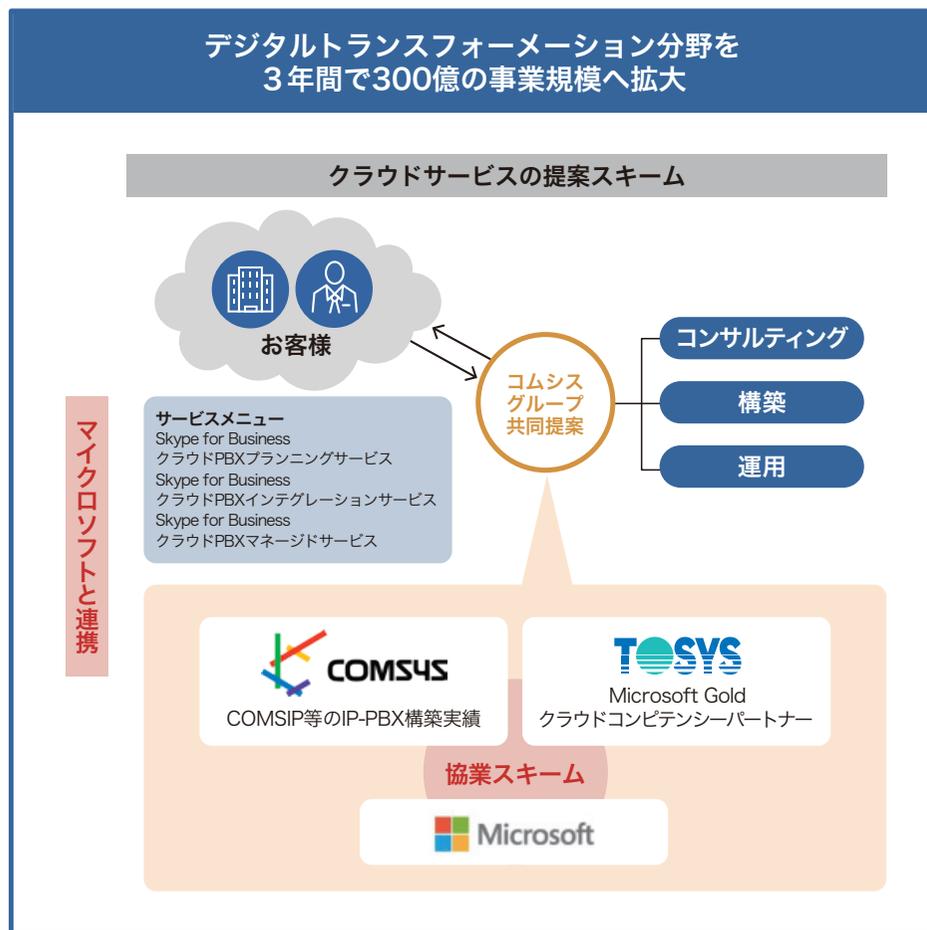
拡大したSkype for Business クラウドPBXは、ネット環境が整えば、オフィス以外の場所でも、オフィスと同じような作業やテレビ会議・外線電話などによるコミュニケーションを実現します。

日本コムシスは、社内検証を実施するとともに、400名以上の高度ICT技術者リソースを投じ、この新たなシステムの計画・導入・運用をサポートするマイクロソフトのガイダンス「Skype Operations Framework(以下、SOF)」のトレーニングを実施しており、SOFパートナーの要件を満たす人数のエンジニアがSOFアセスメント試験に合格しています。

今後、長年にわたり培ったTOSYSのクラウドマネジメント技術と日本コムシスのICTソリューション設計・構築技術の融合で、ワークスタイルの変革に貢献していきます。

※ PBX：Private Branch Exchangerの略。企業内に設置し、内線電話と外線電話同士を交換する構内電話交換機のこと。外線から直接特定の電話を呼び出すことができるほか、短縮ダイヤル、不在転送をはじめとする機能を有する。

■ クラウドサービスの提案スキーム



取り組み **J2** **コムシスグループの業務を集約し、  
各社の事業負担の軽減とコストを削減**

日本コムシス つうけん

日本全国で事業展開しているコムシスグループはグループ内の業務の集約化、システムの共通化による業務効率の向上を推進しています。

オペレーションサービスとは、お客様のご要望に合わせ、24時間365日の監視、受付手配、一次切り分け業務などを行う事業です。

この業務を札幌市白石区にある、つうけんグループのつうけんアドバンスシステムズにプラットフォーム基盤を構築し、コムシスグループのオペレーションサービス業務を集約する札幌オペレーションセンター(以下、OPC)を2016年10月に開設しました。

OPCを共同利用することで、各社の事業負担の大きな軽減が期待されています。さらに、東京から札幌への移設によって、専有スペースや人件費といったコスト面の削減効果も見込まれています。

また、万が一の災害時に備え、電気が使えなくなった場合にも24時間分の発電用燃料も確保しており、いざというときには自家発電を使用し、電力レベルを維持できるようにしています。現在、東京でも一部業務を運営しており、札幌のOPCと合わせてお客様に向けたサービス品質を保持できるよう、二拠点で対応しています。



札幌オペレーションセンター(左)は日本コムシス(右)といつでも連携が可能に



## オペレーションセンター主体で新たな事業、 新たな価値を創出していきます

これまでオペレーションサービス事業は、コムシスグループの各社で展開し、ITマネジメントやシステムの仮想化など幅広いICTソリューションで、お客様の課題解決に貢献してきました。日々、多様化・複雑化しているお客様のニーズにお応えし、当該事業をグループ全体で成長させていくために、コムシスグループは、オペレーションセンターを札幌に新設しエリアフリー業務を集約しました。機能や事業体制において制約がある各社が単独で取り組むよりも、グループ共通のオペレーションサービス機能を擁するプラットフォーム基盤を構築する方が成長につながるからです。

限られた時間で、オペレーターやバックヤードSEを育成することが一番の課題でしたが、社内で知恵を寄せて対応しました。より機能性の高いICTソリューションを提供し、ビジネスイノベーションを創出できるよう、グループで尽力していきます。



(左) 日本コムシス ITビジネス事業本部ソリューションビジネス部 担当部長 山田 賢治  
(右) つうけんアドバンスシステムズ 第五事業部 事業部長 勝野 直義

取り組み



## 日本コムシス × 東京舗装工業 社会インフラ事業を拡大

日本コムシス

日本コムシスは、通信事業者の通信インフラネットワーク構築事業のリーディングカンパニーとして、社会インフラ事業分野で活動しています。日本コムシスが、次の時代においても成長・発展し、社会に貢献し続ける企業であるために、近年の飛躍的な技術革新に対応する高品質な施工技術力に加えて、より生産性が高い施工体制の再構築が不可欠であるという認識の下、2016年4月に東京舗装工業を完全子会社化しました。東京舗装工業株式会社は、1947年に創業し、企業理念の「私たちは、道づくりを通して、より豊かな生活を創造します」の精神で道路建設を中心とした生活環境整備を担ってきた企業で、あらゆる環境に合わせた道路工事施工を可能にする高い技術力とノウハウを強みとしています。代表例として、交通量が多い道路や空港などの舗装工事でも、作業開始から3時間という短時間で道路開放を可能とする独自の舗装技術、路面温度の上昇を抑制しヒートアイランド減少を緩和するアースクール遮熱性舗装などがあげられます。

東京舗装工業が日本コムシスグループに加わったことにより、施工プロセスに舗装が含まれる電線類の地中化工事や高速道路の電気設備工事などを、通信建設から舗装工事までつなげて、一貫した施工体制で行うことができ、生産性を向上することができます。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の円滑な開催に向け、首都圏の道路輸送インフラ整備が国の施策となっており、受注増加が見込まれる状況下、東京舗装工業とのシナジーにより、社会インフラ事業の拡大に取り組んでいきます。



東京舗装工業が手掛けたヒートアイランド抑制効果がある保水性舗装

# 太陽光発電事業

地球に降り注ぐ太陽光のエネルギーを有効活用して電気を生み出す装置が太陽光発電システムです。発電時に化石燃料を必要とせず、地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>を一切排出しないことが大きなメリットとなっています。コムシグループは、この太陽光発電事業をグループ一体となって推進しています。

## 日本コムシグループの太陽光発電事業

日本コムシグループでは、太陽光発電所を日本各地で建設しており、2013年4月に第1号の大規模太陽光発電所を稼働して以来、2017年3月末までに第14号までの太陽光発電所が稼働しています。コムシクリエイトが発電事業者となり、日本コムシが施工を行い、2016年度は3カ所の太陽光発電所を新たに稼働させ、年間推定3,630万kWhの電力発電が可能となりました。CO<sub>2</sub>に換算すると、およそ17,550t-CO<sub>2</sub>のCO<sub>2</sub>排出削減となります。この発電量は、一般家庭の約8,190世帯分\*の年間電力消費量に当たります。日本コムシグループは、今後も太陽光発電事業を継続させることで、地球環境負荷の低減に貢献していきます。

※2013年度の家庭の消費電力量(電気事業連合会HP)から試算



### 第12号

2016年度  
新設



#### サン・ファクトリー関谷 那須塩原 (那須塩原市太陽光発電所Bサイト、Cサイト)

所在地 栃木県那須塩原市関谷・下田野  
敷地面積 約106,000m<sup>2</sup>  
発電容量 約5,737kW  
発電量 年間約590万kWh  
パネル数 21,648枚  
稼働開始日 2016年7月28日

### 第13号

2016年度  
新設



#### サン・ファクトリーみさと 安曇野 (安曇野太陽光発電所)

所在地 長野県安曇野市三郷温  
敷地面積 約24,000m<sup>2</sup>  
発電容量 約1,808.8kW  
発電量 年間約210万kWh  
パネル数 10,640枚  
稼働開始日 2016年11月10日

### 第14号

2016年度  
新設



#### サン・ファクトリー下田野 那須塩原 (那須塩原市太陽光発電所Aサイト)

所在地 栃木県那須塩原市下田野  
敷地面積 約49,000m<sup>2</sup>  
発電容量 約2,875kW  
発電量 年間約300万kWh  
パネル数 10,648枚  
稼働開始日 2017年3月30日

## 太陽光発電設備工事を請け負うEPC事業

日本コムシス サンコム TOSYS

コムシスグループでは、地球環境保全に貢献するため、これまで培ってきた情報通信設備工場の技術を生かして、太陽光発電設備工場の設計・調達・建設までの一連の工程を請け負うEPC事業に積極的に取り組んでいます。これらの工程は非常に複雑で、密な連携が必要であるため、それぞれを個別の会社で行うよりも一つの会社が一貫して行うことで、設計の最適化、高品質化、短納期化される大きなメリットがあります。

太陽光発電設備工事は、コムシスグループがこれまでに培ってきた高い技術があるからこそ実現できる事業として、今後もノウハウを最大限に生かして取り組んでいきます。



大牟田太陽光発電所  
(日本コムシス)



盛岡市玉山区川又字赤坂  
太陽光発電所(サンコム)



北杜高根黒沢太陽光発電所  
(TOSYS)

### 2016年度施工実績

日本コムシス

- 大牟田太陽光発電所
- 軽米太陽光発電設備
- 別川製作所本社工場太陽光発電設備

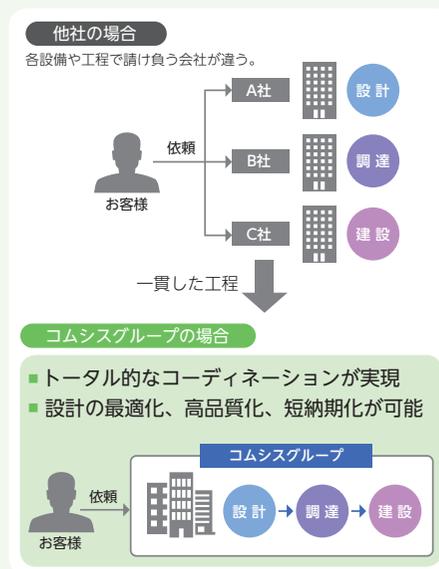
サンコム

- パイテック東広島市小池峠太陽光発電設備
- パイテック宇都宮市氷室町太陽光発電設備
- 盛岡市玉山区川又字赤坂太陽光発電所
- ルーデンスCC太陽光第2、3、4発電所

TOSYS

- 長和太陽光発電所
- 北杜高根黒沢太陽光発電所
- 高根向大下太陽光発電所

### 当社と他社の取り組みの違い



## アジア各国が注目 水上フロート式太陽光発電所視察を開催

日本コムシス

2016年度の太陽光発電設備の世界の新規導入量は、前年度比49.6%増の7,660万kWと2年連続して過去最高を更新しました。地域別の累積導入量で見ると、これまで牽引してきた欧州に代わりアジアが世界最大となり、アジア各国における導入が加速しています。

そのような状況下、日本コムシスが手掛けている水上フロート式太陽光発電所が注目を浴びています。農業用のため池の水上を活用するため、日陰が少なく、高温になると発電効率が低下するパネルの冷却効果があることに加え、パネルが水面への日光を遮ることにより、藻類の発生を抑制し、魚などにとって住みよい自然環境を生み出すなど、多くのメリットがあります。

2016年9月には、台湾政府関係者の要請を受け、水上フロート式太陽光発電所「サン・レイクス屋度 加東」において現地視察を開催しました。台湾は、2018年までの2年間で、1.52GWの太陽光発電導入を目標として掲げ、フロート式太陽光発電設備の建設を積極的に検討しており、フロート式のメリットや台風による影響などについて、熱心な質問がありました。

また、2016年12月には、ベトナム政府関係者8名の視察団を受け入れ、水上フロート式太陽光発電所の特徴などについて説明を行いました。

日本コムシスは今後も各国での水上フロート式太陽光発電所導入の取り組みを支援し、グローバルな再生可能エネルギーの拡大に貢献していきます。



水上フロート式太陽光発電所を視察する  
ベトナム政府関係者

■ サン・レイクス屋度 加東  
(加東市屋度大池太陽光発電所)

所在地	兵庫県加東市屋度字柳入、大縄場
敷地面積	約56,600m <sup>2</sup>
発電容量	約2,009kW
発電量	年間約210万kWh
パネル数	8,036枚
稼働開始日	2015年12月18日
施工会社	日本コムシス株式会社
発電事業者	コムシスクリエイト株式会社

# マネジメント体制

コムシスグループ全体で、盤石な経営基盤を確立し、さらなる企業価値の向上に尽力します。



## 基本的な考え方

コムシスグループは、企業価値の向上に向け、コーポレート・ガバナンス、およびグループマネジメントの強化が重要であると認識し、その充実に努めています。株主の皆さまをはじめ、すべてのステークホルダーから信頼され、評価されるグループを目指し、さらなる経営の透明性・健全性の確保、および各方面でのマネジメントに取り組んでいきます。

## コーポレート・ガバナンス

### ガバナンス体制の整備

#### ガバナンス体制

##### コムシスホールディングス

コムシスホールディングス(以下、当社)は、2017年6月に監査等委員会設置会社へ移行し、株主総会、取締役会、監査等委員会などから構成される企業統治の体制となっています。監査等委員会設置会社への移行により、取締役会の監督機能の強化と迅速な意思決定を行う体制整備を図り、さらなる企業価値向上を目指します。

取締役会は、当社事業に精通する取締役と、独立した立場で経営監視を行う社外取締役で構成され、経営効率を高めるとともに、監査等委員による監査機能の

充実を図ることにより、経営の健全性の維持強化に努めています。また、重要な業務執行の決定を取締役に委任することで、迅速な意思決定と機動的な業務執行が可能となるとともに、取締役会が業務執行に対する監督に専念できる体制としています。

取締役会は取締役10名および社外取締役を含む監査等委員である取締役6名で構成され、取締役会規則に基づき定例取締役会および必要に応じて臨時取締役会を開催しています。法令で定められた事項および経営に関する重要事項について意思決定を行うとともに、業務執行者に対する監督を行っています。

取締役会の決定に基づく業務執行状況については、四半期毎に担当取締役が取締役に報告しています。また、各業務執行取締役の指揮の下、担当業務別に効率的な業務運営を行っています。

社外取締役を除く取締役および常勤の監査等委員で構成されている経営会議は原則月1回開催され、業務

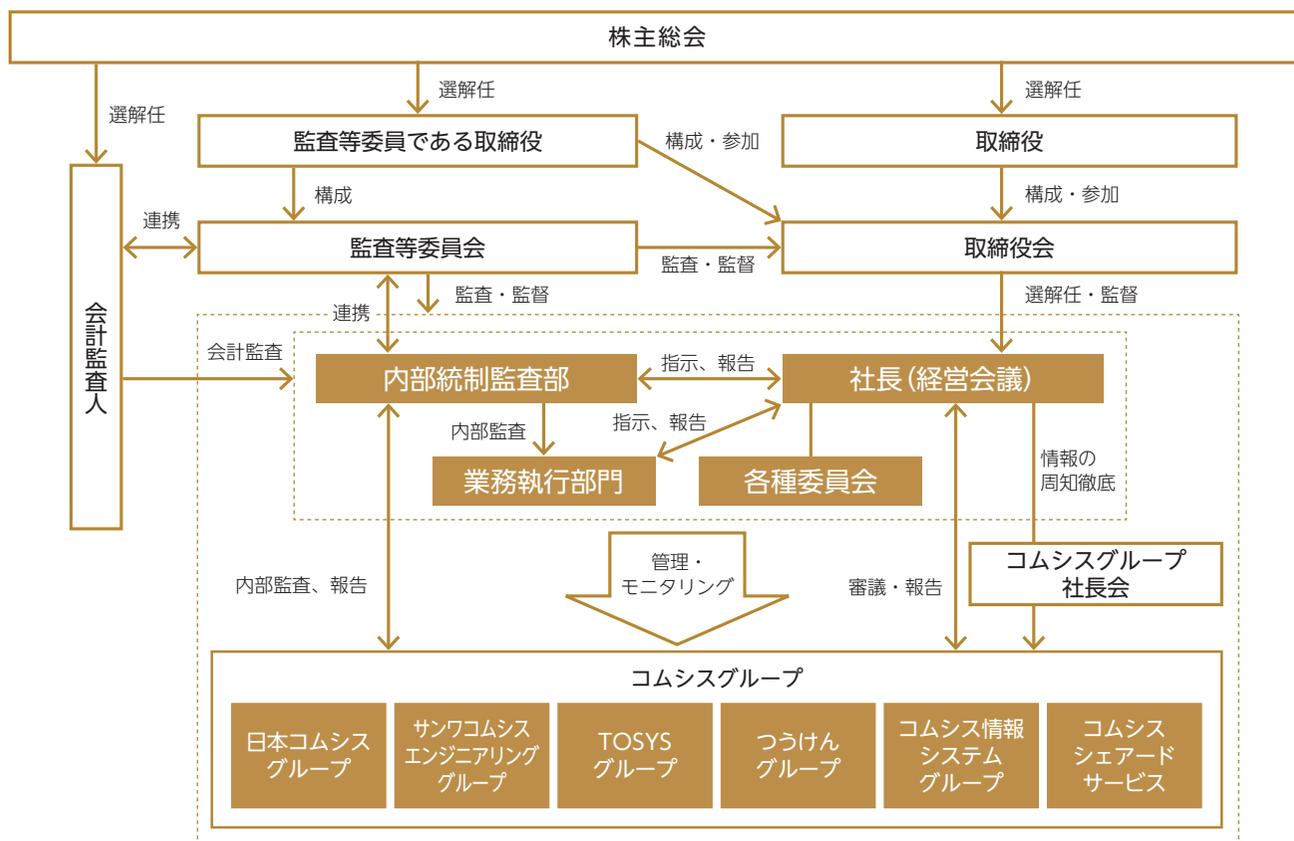
執行の効率化を高めるため、重要な意思決定事項について審議および決議を行っています。経営会議には必要に応じて各組織長などがオブザーバーとして出席し、意思決定内容を的確に把握できるようにしています。

## コーポレート・ガバナンス体制 (2017年8月1日現在)

### コムシスホールディングス

コムシスグループの業務執行体制、経営監視および内部統制は下図のとおりです。

### ■ ガバナンス体制図



## コムシスグループ新任役員研修会

### コムシスホールディングス

2016年7月にコムシスグループ新任役員研修会を開催しました。

本研修会は、グループ各社の新任役員を対象として毎年継続して実施しています。弁護士、公認会計士を講師に迎え、「取締役・監査役の職務と責任」および「役員が知っておくべき会計」についての講演を受け、グループのガバナンスの強化に努めています。

## 組織の活性化・効率化

### 子会社化・経営統合などを実施

#### 日本コムシス

コムシスグループは、トップラインの拡大のため、M&Aやアライアンスなどの強化による事業領域の拡大に取り組んでいます。

日本コムシスでは、2016年4月に、社会インフラ事業などにおける事業拡大のため、道路建設を中心に企業活動を営む東京舗装工業を完全子会社化しました。また、2017年7月に、都市ガスのインフラ施工において豊富な実績を有する株式会社カンドーを完全子会社化しました。

これら周辺事業分野での積極的な子会社化や経営統合を通じて、高度化するお客様のニーズをとらえるとともに、それぞれの強みを生かした広範囲な事業展開と経営資源の連携によるシナジーの最大化を通じ、グループとしての成長戦略を推進します。

## 拠点集約による業務効率化

日本コムシス

サンコム

TOSYS

つうけん

長野県松本市に日本コムシスやTOSYSなど6社(5拠点)を集約した「TOSYS松本ビル」が完成し、2016年6月1日に長野県中信エリアの重要拠点として新たなスタートを切りました。日本コムシスでは、福岡県内の3拠点および熊本県内の1拠点に分散していた九州エリアの事業所を集約し、福岡県筑紫野市上古賀にエンジニアリング業務の総合センター「福岡テクノステーション」を建設、サンコムも九州支店の2部門が同じビル内に移転し、2016年7月11日より業務を開始しました。また、つうけんにおいては、北海道室蘭市築町に「つうけん室蘭ビル」が完成し、2016年10月17日より業務を開始しました。つうけんおよびグループ会社が入居することで、これまで以上にスムーズな業務連携が期待できます。

グループ会社を含めた施工拠点の大規模再編を実施したことで、事業運営体制の強化、工事のさらなる品質向上を目指すとともに、管理業務の一元化による施工体制の見直しや、重複業務の解消による業務の効率化、リソース最大活用によるマルチ技術者育成などの業務改善を推進していきます。



コムシス福岡テクノステーション外観



TOSYS松本ビル外観



つうけん室蘭ビル外観

## 内部統制・コンプライアンス

### 内部統制

#### 内部統制システムの整備

コムシスホールディングス

当社は会社法に基づき、取締役会が決議した「内部統制システム構築の基本方針」を踏まえ、内部統制システムを構築・推進しています。また、金融商品取引法に基づく「財務報告に係る内部統制」については、内部統制室を設置して財務報告のさらなる適正化に努めるとともに、継続的に内部統制を運用する体制を確立しています。

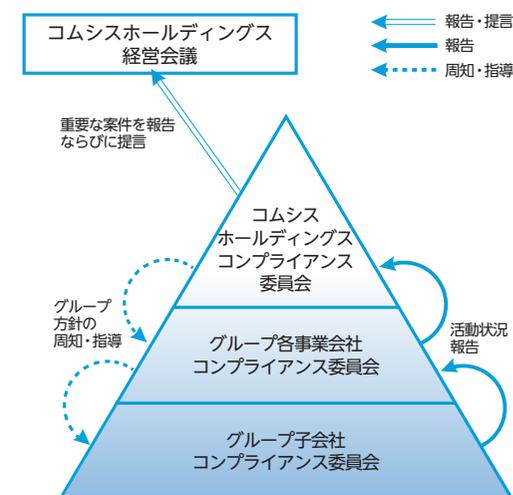
## コンプライアンス

### コンプライアンス推進体制の整備

コムシスグループ

2004年1月に制定された「コンプライアンス・プログラム」に基づき、コムシスグループのコンプライアンス体制の構築・強化に取り組んでいます。本プログラムで定めた「コンプライアンス行動指針」を、グループ共通の行動指針として各社のコンプライアンス規程などに反映しています。また、グループ各社のコンプライアンス担当役員、監査等委員などをメンバーとした「コンプライアンス委員会」を定期的に開催し、各社からの活動状況などの報告により情報を共有し、グループ各社の均質化に取り組んでいます。

#### ■ コンプライアンス推進体制図



## コムシスグループ行動規範

### コムシスグループ

コムシスグループにおけるコンプライアンス(法令・企業倫理の遵守)を徹底するためには、グループ各社の社員一人ひとりがコンプライアンス行動指針に基づいた日常行動を徹底することが求められます。コムシスグループの役員・社員一人ひとりが具体的に遵守すべき行動原則として「コムシスグループ行動規範」を2010年3月に制定し、グループ各社の社員全員が実践すべき行動を示しています。

腐敗防止として、(1)顧客に対して贈賄行為や社会的常識を逸脱する接待・贈答を防止(2)取引先に対して優越的な地位を利用することなく、透明・公正な取引を行う、と定めています。

## コンプライアンス研修の実施

### コムシスグループ

コムシスグループでは、コンプライアンスの遵守を徹底するため、各社で階層に応じたコンプライアンス研修を実施しています。違反事例および違反による企業の信頼性低下などの研修を通じて、コンプライアンス意識の醸成に取り組んでいます。また、法令に対する知識がなかったことによる違反を防止するために、幅広く法令についての見を深めています。



入社3～4年目社員対象の  
コンプライアンス研修(つうけん)

## 「コンプライアンス相談窓口」の設置

### コムシスグループ

コムシスグループ各社の社員が日常の行動において判断に悩んだときの相談・通報窓口として、「コンプライアンス相談窓口」を設置しています。グループ各社の総務部コンプライアンス担当が対応するほか、社外の相談窓口として法律事務所の利用が可能です。寄せられた相談・通報については、コンプライアンス委員会にて社外の有識者から助言や提言をいただきつつ、適切なフィードバックに努めています。

## 公益通報制度を運営

### コムシスグループ

コムシスグループでは、コンプライアンス経営への取り組みを強化するため、2006年4月に「公益通報者保護規程」を制定しています。これは公益通報者保護法と内閣府のガイドラインに基づき、社員や契約社員、嘱託社員、派遣社員からの通報により、組織的または個人的な法令違反行為などの早期発見と是正を図ることを目的とし、公益通報制度を適正に運営するためのものです。

## 反社会的勢力の排除

### コムシスグループ

コムシスグループは、市民社会の秩序や安全に威嚇を与える反社会的勢力および団体に対して、企業としての社会的責任を果たすよう、一切の関係を遮断しています。また、関係を強要されたときは、毅然とした態度で臨み、弁護士、警察などと連携しながら組織的に対応する体制を整備しています。

## リスクマネジメント

### リスク管理体制

#### コムシスホールディングス

当社は、変化の激しい事業環境において、社会に貢献し続ける企業として、企業価値を向上していくために、リスクマネジメント体制を強化しています。

当社には、社長を委員長とし、当社および統括事業会社の取締役で構成する「リスク管理委員会」を設置しています。委員会では、「リスク管理基本方針」に基づき、コムシスグループを取り巻くさまざまなリスクを適切に管理し、事業に重大な影響を与えるようなリスクについて、排除または低減する対応を行っています。

また、コムシスグループ各社においても同様に委員会等を設置し、それぞれの業務リスクに応じて必要な対応を行うなど、コムシスグループ全体でのリスクマネジメントを行っています。

## 情報セキュリティ

### お客様情報の漏えい防止をシステム化

#### コムシスグループ

コムシスグループでは、お預かりしているお客様情報の漏えい防止策の一環として、「セキュリティのシステム化」や「セキュリティパトロール」を通じ、職場から家庭までを含めた対策を実施しています。「セキュリティのシステム化」のツールとしては「COM.PASSカード」を導入して、業務で使用するすべてのPCの起動制御やファイルの暗号化、オペレーションの履歴取得を行うなどのセキュリティ対策の強化に取り組んでいます。

### 情報セキュリティ・個人情報保護に関する教育

#### コムシスグループ

近年、現場を取り巻く環境において、法令遵守はもとよりマナーやモラルについても高いレベルが要求されています。

コムシスグループでは、個人情報を含む企業情報の漏えい事故防止のための社員教育にも注力しています。eラーニングでは情報セキュリティの基礎知識や要員としての責務を学び、社員がそれぞれの理解度を確認しながらスキルアップを図っています。

#### ■ コムシスグループ各社のeラーニング受講終了率 (%)

会社名	2014年度	2015年度	2016年度
日本コムシス	99.5	98.1	99.9
サンコム	99.7	100.0	100.0
COMJO	100.0	100.0	100.0
CSS	100.0	100.0	100.0

各社独自の取り組みとして、日本コムシスでは、新入社員研修および各階層の研修において、コンプライアンスの事例やクイズを交えた講義により、意識の醸成を図っています。

サンコムでは、情報セキュリティ研修を社員およびパートナー会社を対象に年2回実施し、情報保護への強い意識の継続を繰り返し教育で実施しています。2016年度は全国で2,587名が受講し、「情報セキュリティインシデント」の発生によるお客様や社会に与える影響度について研修DVDを活用し、情報取り扱いの大切さに対する理解を深めています。最後は理解度テストにて情報保護徹底の確認をしています。

TOSYSでは、毎年個人情報保護・コンプライアンスについて全社員を対象に研修を行っています。

つうけんでは、社員およびグループ会社社員を対象として、年1回情報保護に関する教育を実施し、個人情報管理の重要性および社員個々人のモラル・意識向上の醸成を図ることにより、個人情報の漏えい・紛失などの事故防止に向けて取り組んでいます。

プライバシーマーク制度の認定についても、2016年度は6回目の更新について適格の決定がなされたところであり、今後とも情報保護について取り組みを継

続して実施しています。

COMJOでは、情報セキュリティ研修を社員およびパートナー会社を対象に年1回実施し、情報保護への強い意識の継続を繰り返し教育しています。また、新しくプロジェクトへ加入したパートナー会社のメンバーに対しては、都度情報セキュリティ研修を実施しています。

CSSでも毎年、個人情報保護について全社員を対象に研修を行っています。プライバシーマーク制度の認定は過去に4回の更新を行っており、情報保護の取り組みを継続して実施しています。

## 情報セキュリティの点検を実施

### COMJO

情報ソフト開発の統括事業を担うCOMJOでは、お客様から信頼されるパートナーであり続けるため、情報セキュリティの現場点検を実施しています。情報セキュリティ委員がお客様の各現場まで出向き、守るべきルールと遵守状況などを点検しています。協力会社様も含め、情報セキュリティに関して、順守すべき基本15カ条をまとめたものを携帯しています。

## 事業継続

### BCP(事業継続計画)に関する取り組み

#### コムシスグループ

日本コムシスとCSSでは、社員の安否の早期確認およびサプライチェーンとの連携確保により、被災された地域の皆さまへの通信インフラなどの復旧に最大限に寄与できるよう、

一定規模の災害が発生した場合の能動的行動の明記に加え、新システムを導入しBCPに取り組んでいます。東日本大震災当時はシステム開発中だったため、社員の安否確認を自動的に確認することができませんでしたが、その後運用を開始し、2016年に発生した熊本地震ではタイムリー、かつ遠隔での確認を行うことができました。今後は、震災状況下でも安定したネットワークを確保することが可能なシステムを導入予定です。従来のシステム同様、遠隔での起動も可能であり、自動的に、かつ効率的に安否確認を行えるようになります。

サンコムでは災害時の復旧や支援のために、各支店にイリジウム衛星携帯電話を配備しています。イリジウム衛星とは、地上780kmの位置に配備された66基の通信衛星です。一般の通信の確保が困難となるような災害発生時に、いち早く状況把握をして地域やお客様に貢献



災害時に備えて非常食を備蓄

できるよう、毎月全国を結んで訓練を実施し、機器の充電や付属品の点検も行って、いざという時に備えています。

つうけんでは2016年4月1日から全社員を対象に、NTTドコモ様が提供する「iトピックスプラス」を活用した安否確認システムの運用を開始しています。震度5強以上の地震あるいは生命に危険が及ぶと想定される自然災害などが発生した場合に配信され、社員の安全確保の強化を図ることとしています。2016年6月16日に発生した北海道内浦湾を震源とする震度6弱の地震の際は、道南方面の社員に対し発信され、全員の安全が確認されました。今後も引き続き社員と家族の安心・安全確保に努めていきます。

さらに、コムシスグループ各社では、首都直下地震や各エリアでの地震を想定した事業継続シミュレーションを行い、帰宅困難な社員への支援および事業継続のための災害対策要員も含めた体制を整備しています。

行政方針を参考に帰宅困難者および事業継続のため、3日分の非常食などの備蓄品を5カ年計画で順次更改することとし、各事業所やTSなどにも配備しています。

また、支援時の移動に必要な車両燃料についてもエネルギー会社との提携を行い、非常時の体制充実を図っています。さらに、支援に必要な車両についても電気自動車の導入も推進し、夜間には発動発電機として使用するなど、地球環境にも配慮したBCPを展開しています。

## 防災・避難訓練の実施および各拠点へのAEDの配備

### コムシスグループ

コムシスグループでは、各社において年に1~2回、防災・避難訓練を実施しています。また、万一の事態に備え、その場に居合わせた人が自由に使えるよう、



AED訓練の様子(日本コムシス)

各拠点にAED(自動体外式除細動器)を配備しています。

日本コムシスでは、全ビルにおいて年1回、防災・避難訓練を実施しています。2016年11月8日、コムシス品川港南ビルにおいて初期消火訓練、AEDを使用した救命訓練、緊急通報訓練などを含む自衛消防訓練を実施し、約270名が参加しました。

サンコムでは2016年9月7日、本社ビルにおいて、首都直下地震(震度6強)が発生した場合を想定し、社員安否確認、被害状況確認、衛星携帯電話での各支店の状況確認を行いました。また、備蓄品の確認や、杉並消防署員の指導の下、AEDを使った心肺蘇生体験と救命講習会を実施、併せて、保管している防災用ジャッキにて重量物排除方法の確認も行いました。さらに同年12月8日には、本社ビルにおいて防災・避難訓練を実施しました。

TOSYSの各事業所においても、年に1回、防災・避難訓練を実施しており、2016年度もそれぞれの地域の消防署にご協力いただき、避難誘導の指導や、消火器・

AEDなどの使い方についての指導を受けました。

COMJOでは2016年9月21日、品川本社ビルにて合同避難訓練を実施しました。緊急放送設備、避難経路の確認とともに消防訓練を行い、高輪消防署員より消火器および、AEDの使用方法について訓練を受けました。またお客様作業場所で勤務する社員も含め、COMJOの全社員を対象とした、携帯電話への緊急メール通知による安否確認訓練を実施しました。このほかつつけんでも、防災・避難訓練を年に1回実施するとともに、関連企業などにAEDの設置もしています。

## 通信ケーブル応急復旧訓練に参加

### 日本コムシス TOSYS

日本コムシスとTOSYSでは2016年10月27日、NTTグループ各社ならびに小千谷市様、陸上自衛隊東部方面部隊様とともに、NTT東日本一関信越主催の災害復旧訓練に参加し、十日町西部断層を震源とする震度6強(M7.4)の地震により、小千谷市・十日町市を中心に電柱、ケーブルなどに甚大な被害が発生したという想定で、「線路設備復旧班」として復旧作業演習を実施しました。見学者が多い中での作業でしたが、災害現場という想定の中、安全には特に注意を払っての復旧作業を実演しました。

こうした訓練に参加し、作業を安全に行うことで、予期せぬ災害時も迅速な対応で通信設備の早期復旧ができるよう日頃より備えています。



ケーブルの張り替え作業の様子(日本コムシス)



大規模災害に備えた防災訓練(TOSYS)

## 災害時に備え防災演習を実施

### つつけん

つつけんでは、2016年8月4日、NTTグループ各社および自治体と共同で大規模激甚災害に備えた実践的な演習に参加しました。訓練では、北海道石狩管内での土砂災害などを想定し、具体的には河川氾濫に伴う



応急ケーブル接続演習(つつけん)

置局ビルなどの浸水、土砂災害による光ケーブル断などを想定した防災演習が実施されました。こうした演習訓練を通じ、甚大な災害への通信設備の早期復旧に向けた対応に備えています。

## サプライチェーンマネジメント

# サプライチェーンへの配慮

## 調達の基本方針

コムシスグループ各社では、それぞれの業態に合わせて資材や役務などに関する調達のための基本方針を策定しています。法令遵守の下、方針に沿って、オープンでフェアなお取引を通じて信頼関係の構築に努めています。

### ● 日本コムシスにおける調達の基本方針

#### 日本コムシス

#### ▶ 公平・公正な取引

お取引先選定は、資材・役務の品質・信頼性・納期・価格ならびにお取引先の経営安定性などを総合的に評価して公平・公正に行います。

#### ▶ 法令・社会規範の遵守

法令・社会規範および社内規程を遵守し、健全で公正な調達を行い不正な行為には加担しません。

#### ▶ 品質の確保

当社の「品質方針」に沿って品質と安全を優先し、さらにコストについても重視します。

#### ▶ お取引先との良好なパートナーシップの構築

相互信頼関係に基づき、お互いの技術力の向上を図るとともに、良好なパートナーシップの構築に努めます。業務上の立場を利用した収賄、強制横領を行いません。

#### ▶ 機密情報の保護

取引を通じて知り得た機密情報は、お取引先の承諾なしに第三者に開示いたしません。

## 協力会社との取り組み

### パートナー会社社長連絡会・協力会社連絡会を開催

#### 日本コムシス

#### TOSYS

#### つうけん

コムシスグループの事業活動は、協力会社との連携があってこそ成り立ちます。そのため品質・安全の向上を図るため、各社では定期的に協力会社を対象とした連絡会を実施しています。



パートナー会社社長連絡会の様子  
(日本コムシス)

日本コムシスでは、2016年7月13日にNTT事業本部、7月20日にドコモ事業本部、7月28日にITビジネス事業本部および社会基盤事業本部が全国パートナー社長連絡会を開催し、事業動向や事業計画および経営方針やコンプライアンスと安全についての説明を行うとともに、パートナー会社とのさらなる事業領域の拡大を目指し意見交換会を行いました。また同年5月24日には、ドコモ事業本部にて協力会社連絡会を開催し、参加者全員で大きな目標に向かう決意と団結力を深めました。

TOSYSでは、年に2回業務推進会議を実施し、事業計画概要および各事業部などの取り組みを説明しています。

つうけんではグループ会社を対象としたグループ経営会議を月に1回開催しています。

## 株主・投資家との対話

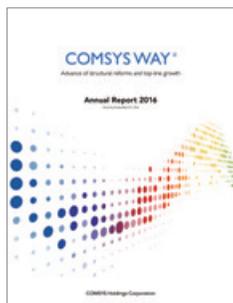
# IR情報の適正・適切な開示

## タイムリーな情報開示を実施

#### コムシスホールディングス

当社では、株主・投資家の皆さまに対して透明性の高い情報開示を行っています。Webサイトでは、IRライブラリー、IRスケジュール、財務情報、月次情報などのIRに不可欠な情報をタイムリーに更新しているほか、半期ごとに社長メッセージやトピックスなどを掲載しています。IRライブラリーでは、「決算短信」「有価証券報告書」「事業報告書」「Annual Report」などの各種資料の

PDFファイルを、いつでも自由にダウンロードしてご覧いただくことができます。また、お問い合わせの多い質問にはFAQコーナーで一括してお答えするなど、投資家の皆さまがお求めになる情報を分かりやすく開示することに努めています。



Annual Report 2016



コムシスだより(期末)

## 開かれた株主総会の開催

### 第13回定時株主総会を開催

#### コムシスホールディングス

2016年6月29日、東京・品川区のコムシスホールディングス本社ビルにて「第13回定時株主総会」を開催しました。

より多くの株主の皆さまが、株主総会における議案を十分に審議し、出席していただけるように、招集通知の早期発送および議決権電子行使プラットフォームを利用し議決権の電子行使を可能にするなど環境を整備しています。

また、招集通知については、発送前に東京証券取引所と当社ホームページに英語版と併せて掲載して公開しています。

さらに、この株主総会での決議結果についても、当社ホームページに掲載して公開しています。

## 投資家向けイベントの実施

### 年2回の決算説明会を開催

#### コムシスホールディングス

機関投資家の皆さまに向けて、コムシスホールディングスの経営方針や財務状況を理解していただけるよう、毎年2回、5月と11月に決算説明会を開催しています。



決算説明会の様子

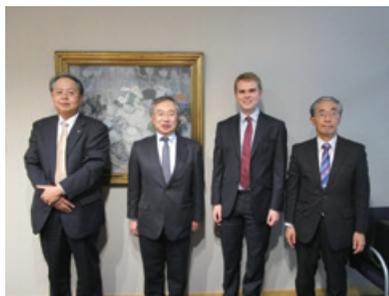
2016年度の決算説明会では、いずれも約50名のアナリストや機関投資家の皆さまにご参加いただきました。

### 海外IRを実施

#### コムシスホールディングス

当社では、株式の17%程度を保有する外国の機関投資家を変重要なステークホルダーとして位置づけています。

2016年度においては3度の海外



海外IRの様子

IRを行い、機関投資家からは、足元の決算状況、モバ

イル関連の受注状況、M&Aや成長分野への進出、さらには株主還元を含む資本政策など多岐にわたる質問が寄せられました。

### 個人投資家向けIR説明会を開催

#### コムシスホールディングス

当社では、個人投資家向けIR説明会を開催しております。

事業内容・会社の状況・株主還元などについて説明を行い、また、参加者の方からの質問にお答えしています。

今後も個人投資家との対話を継続し、会社への理解を深めていただけるよう活動していきます。



個人投資家向けIR説明会の様子

安定した事業活動、安心・安全な労働環境を目指して

# 安心・安全の追求

安定した事業活動、安心・安全な労働環境を目指して安心・安全・衛生に配慮した労働環境と、安定した事業活動を目指し、さまざまな取り組みを行っています。



## 基本的な考え方

「安心・安全な業務体制」が守られなければ、安定した事業活動は維持できません。コムシスグループでは、社員はもとより、協力会社を含めた現場スタッフが労働安全衛生や交通安全への意識を高められるよう、研修や教育を実施し、「現場の視点」を尊重しながら労働安全衛生の確保に取り組んでいます。

## 労働安全衛生

# 労働安全衛生 マネジメントシステム

## 労働安全衛生マネジメントシステム

### コムシスグループ

事故によって尊い人命が奪われるなどして、ご家族を悲しませることはもちろんのこと、事故が起きたことにより社会やお客様にご迷惑がかかるようなことは決してあってはならないことです。コムシスグループは、情報通信エンジニアリング業界のトップブランドとして、労働安全衛生マネジメントシステムにのっとり、労働安全衛生に関する法令ならびに当社の安全衛生に関する規程を守り、全社員の協力の下、安全衛生の確保と水準の向上に継続的に努めています。また、日本コ

ムシスでは、「COHSMS<sup>※1</sup>」、サンコム、TOSYSでは、「OHSAS18001<sup>※2</sup>」の認証登録<sup>※3</sup>を行い、安全憲章や安全方針を策定していますが、各社とも毎年、「事故撲滅」を最重要経営課題として掲げ、現場の工事などを担当する協力会社とともに、グループ全社を挙げて事故および労働災害の防止に取り組んでいます。

※1 COHSMS (Construction Occupational Health and Safety Management System) : 厚生労働省の「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」に基づき、建設業労働災害防止協会が業界の実情を踏まえて作成したPDCAサイクルを通して、自発的に安全衛生水準の継続的向上を図るための建設業向け労働衛生マネジメントシステム。

※2 OHSAS18001 (Occupational Health and Safety Assessment Series) : PDCAサイクルによって組織が労働者および関係者の労働安全と衛生に関するリスクを最小限にし、労働災害を予防していくための労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格。第三者認証機関による認証取得を受けることができます。

※3 サンコムでは、社会システム事業本部営業本部 / 社会システム事業本部 / コンストラクション本部 / 安全品質管理本部 / 各支店において認証取得しています。

# 労働災害・事故撲滅に向けた 取り組み

## 安全大会の実施

### コムシスグループ

コムシスグループでは、「安全はすべてに優先する経営の課題事項であり、経営の要」という意識の下、各社で安全大会を開催しています。



サンコム安全大会

安全大会では、労働安全に対する意識の向上を図るとともに、各社の安全品質向上に向けた改善の取り組み発表や各事業部

代表による安全決意表明を行い、最後に参加者全員による「安全唱和」で締めくくり、参加者全員が事故撲滅の決意を新たにしています。また、人身事故防止に向けた危険体感デモ、自然災害や人身事故における被災者のドキュメンタリービデオの視聴などを通じ、安全への意識を高めています。

日本コムシスは、2016年7月15日に、社員と協力会社を対象に安全大会を開催し、約1,000名が参加しました。遠隔の支店やTS(テクノステーション)などには、安全大会の様子を同時映像配信し、なるべく多くの社員が参加するようにしています。

サンコム(4月26日開催)では、協力会社114社を含め計321名、TOSYSでは、長野(8月31日開催)で協力会社62社を含めた計482名、新潟(9月7日開催)で協力会社71社を含めた計439名が参加しました。

つうけんは、ITEA北海道支部の支部長として、北海道支部安全大会を9月6日に開催し、協力会員240名が参加しました。

今後もコムシスグループ一丸となり、事故撲滅に向けて安全品質の仕組みづくりを行っていきます。

## 安全巡視などの実施

### コムシスグループ

人身・設備事故撲滅に向けて、コムシスグループ全体で各種取り組みを展開しています。現場で作業する社員などと社長との対話を重視したパトロールを行い、特に高所作業車の使用方法や作業内容について事故防止に向けた具体的な取り組みを確認することで、作業を行う社員一人ひとりの安全に対する意識の向上を図っています。

また、役員が定期的に安全パトロールを実施しており、2016年度も各社で実施し、安全意識の徹底に努めました。



役員現場安全  
パトロール(TOSYS)



役員現場安全  
パトロール(つうけん)

## サンコムの安全に向けた活動

### サンコム

サンコムでは、「安全・品質の確保は最大の営業力であり、これを継続することがお客様からの信頼となる」を合い言葉に経営幹部もメンバーに加えた安全品質向上抜本改善委員会を開催し、プロジェクトの着手前に想定される事故・トラブルの予防や事故防止対策を“安全の先取り”として議論しています。また季節特有の事故防止策などを検証し、現場の安全および品質の向上に努めています。



特別安全強化期間に  
着用するワッペン

## 安全品質強化委員会開催

### TOSYS

TOSYSでは年3回、安全品質強化委員会を開催しています。長野・新潟・山梨の3会場でそれぞれ行い、パートナー会社・協力会社・TOSYSグループなどの代表者など、総勢約200名が参加し、安全と品質に関する重点取り組みについて説明が行われた後、各事業部、各協力会社から安全の取り組みについて発表があり、人身・設備事故撲滅に向け意識合わせを図りました。

## 一斉メールシステムの導入

### つうけん

つうけんでは、2014年度より全国の事故情報と自社の事故情報について、NTTドコモ様の一斉連絡サービス「iトピックスプラス」を利用し、社員・現場施工班へリアルタイムに発信し、情報共有を行っています。これにより、安全作業の意識向上・動機付けを行い、受信状況も確認することで、さらなる指導強化を図っています。

## 作業服をリニューアル

### コムシスグループ

コムシスグループは、2017年1月より、コムシスグループ統一作業服をリニューアルし、新しいデザインに切り替えました。

従来、所外用・所内用の2種類あったものを、防寒性と静電効果も兼ね1種類にし、あらゆる環境に対応しました。また、暗がりの中での視認性も向上し、機能がさらに高まりました。



(左)上着 (中央) (右)長袖シャツ

### 個体管理システムを導入

襟元のバーコードによる個体番号で一着ずつ管理しており、使用者を確認できるようになっています。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会など重要なイベントが控える中、テロに対する意識、安全への配慮を高める目的で導入しました。



バーコードによる「個体管理システム」を導入

## 安全衛生教育の実施

### 安全研修の実施

#### 日本コムシス

#### サンコム

#### TOSYS

#### つうけん

日本コムシス、サンコム、TOSYS、つうけんの各社では、定期的に安全研修を実施しています。この安全研修は、事故防止の徹底を目的としており、協力会社も参加しています。第一線の現場で作業をするにあたり、危険予知など事故の未然防止に効果的なテーマを選定し、作業員全員が「絶対に事故を起こさない」という強い意識を持って、安全施工を完遂できるよう取り組んでいます。

日本コムシスのNTT事業本部では、2016年8月27日に上野事業所において、株式会社タダノ様のご協力をいただき、高所作業車ブラッシュアップ研修を実施しました。

タダノ様の指導の下、座学を行った後、バケット車逸走実演や、バケット駆動部へのグリース給脂実技などを実施し、安全作業の再確認をし、受講者全員が現場での安全作業を誓いました。

サンコムでは、全員の体に染み込むように覚えさせる体験型の研修を全国で実施しています。2016年度は、可搬型のフルハーネス型安全帯ぶら下がり体験装置を導入し、全国で協力会社も参加して体験型の研修を実施しました。また、高圧・特別高圧の感電事故防止のため、高圧・特別高圧の設備を使った研修をモバイル系社員主体に実施しました。



高所作業ブラッシュアップ研修  
(日本コムシス)



フルハーネス体感器  
(サンコム)



安全帯の一点検  
(つうけん)

## 班長セミナー開催

### 日本コムシス

日本コムシスでは、すべての認定班長に対し、リスクアセスメント、安全施工サイクルなどについての研修を行い、現場第一線の監督者として、指示処分、改善勧告を阻止するために、人身・設備・交通事故を絶対に起こさない、という意識の醸成および現場指導力の向上を図りました。



班長セミナーの様子

## 電設系体感教育施設の設定

### サンコム

サンコムでは、2016年3月、西関東TS(テクノステーション)事務所敷地内に屋外キュービクルや電灯・動力盤・警報盤・弱電盤・自火報受信器などを設置し、躯体工事(コンクリートの床、壁の中の工事)や内装工事で必要な電気設備工事環境を再現し、設備に実際に触ってみることができる体感教育施設を設立しました。テキストを読むだけではなく、「触って、動かして」を実体感することにより、より実践に近い技術研修ができるようになりました。この施設は社内だけでなく、協力会社およびコムシスグループの誰でも活用できるようになっており、電設系技術者の早期育成を着実に進めます。



電設系体感教育施設

# 交通安全への取り組み

## 交通安全への取り組み

日本コムシス   サンコム   TOSYS   つうけん

コムシスグループでは、情報通信設備工事をはじめとして事業を遂行するために多くの自動車を利用しており、運転する社員の交通事故を未然に防ぐためにさまざまな取り組みを行っています。

日本コムシス、サンコム、TOSYS、つうけん各社では、年に数回、最寄りの警察署や安全運転協会などから講師をお招きしての講話、DVDを用いた安全講習などを開催しています。雪で道路が凍結し、発生しやすい地域では、スリップに備えた実地訓練や事故防止の強化月間を設定するなど、地域特性を踏まえた効果的な取り組みを行っています。

安全運転講習会以外にも、危険運転回避などを目的としたドライブレコーダーの導入、優良ドライバー表彰なども行ない、安全運転意識の向上に努めています。これらの取り組みにより、通期の交通事故発生も大きく減少しました。

サンコムでは独自の取り組みとして、家族から「交通安全防止」をテーマとした絵を募り、家族が安全への願いを込めて描いた絵をポスターにしています。この取り組みは、交通安全意識の高揚と交通事故防止に成果を上げています。



安全講習会の様子  
(日本コムシス)



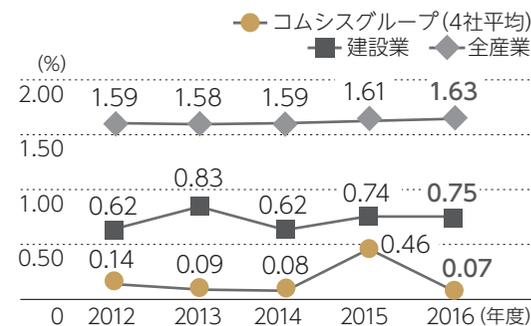
交通安全ポスター  
(サンコム)



交通安全講習(TOSYS)

## 労働災害発生度数率の推移

コムシスグループ



※度数率：100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で災害発生の頻度を表す。

算出方法：(労働災害による死傷者数/延実労働時間数) × 1,000,000

お客様視点を踏まえたサービス品質の向上、地球環境課題の解決に向けて

# 品質向上と環境への配慮

お客様視点を踏まえたサービス品質の向上、地球環境課題の解決に向けて

「コムシスブランド」の維持・向上と、環境負荷低減を目指した事業活動、社会貢献活動に取り組んでいます。

## 基本的な考え方

「社会基盤を支えるコムシスブランドの品質」を維持・向上させるため、現場の声と経営層、双方の視点からの改善活動や品質向上に向けた技術開発に励んでいます。  
また、環境負荷低減に向けたオフィスでの取り組みや、環境保全活動一環として「コムシスグループの森づくり」にも取り組んでいます。

## 品質向上

### 品質保証の基盤としての 品質マネジメントシステム

#### 品質マネジメントシステム「ISO9001」

##### コムシスグループ

「お客様に信頼され、21世紀に向けての積極的な事業展開に寄与し、豊かな高度情報化社会の発展に貢献する」ことを目的として、1997年に、日本コムシスとCOMJOが最初に品質マネジメントシステム「ISO9001」の認証を取得しました。その後サン



登録証(つうけん)

コム、つうけん、TOSYS各社においても「ISO9001」の認証を取得し、現在も継続しています。

コムシスグループは、品質マネジメントシステムを構築し、設定した目標や課題の継続的改善を図るため、PDCA (Plan→Do→Check→Act) サイクルを基本とした活動を展開しています。システムの効果的な運用や、お客様要求事項および法令・規制要求事項への適合の保証を通して、お客様満足の向上を目指しています。

#### ISO9001取得状況(2017年3月末現在)

会社名	登録範囲	初回登録年月
日本コムシス	本社(3本部限定)	1997年12月
サンコム	社会システム事業本部営業本部/社会システム事業本部/コンストラクション本部/安全品質管理本部/各支店	1998年5月
TOSYS	本社	1999年3月
つうけん	本社	1998年9月
COMJO*	本社	1997年12月

※ COMJOは、日本コムシスの登録範囲の一部として、認証を取得しています。  
そのため初回登録年月が、COMJOの設立日以前となっています。



# 安全品質向上のための改善活動

## 品質向上の取り組み

日本コムシス COMJO CSS

日本コムシス・COMJO・CSSでは、現場を中心とした改善活動をそれぞれで進め、経営層が掲げる改革施策と現場の改善活動が両輪となって強い現場をつくることで、企業競争力の向上を目指しています。

日本コムシスでは、改善活動の具体的な取り組みとして、メモ提案を40年以上続けています。メモ提案とは、現場の社員が自分の職場をよくするために仕事のやり方に創意工夫をし、その手法を提案する社内制度です。メモ提案は1年中受け付けており、協力会社も参加しています。

2013年7月からは、これまでに集まった約30,000件の提案に、よりよいアイデアを加えて提案する「まねっこ提案制度」を開始しました。各提案にコメントを入れる仕組みを導入し、普段は直接顔を合わせることのない現場社員の意見を集めることを可能にしています。このような試行錯誤により参加人数が増加しており、提案の質も向上しています。また、社員から出たよいアイデアは、社内のWebサイトでの公開や試作品の配布などを行い、全社へ水平展開を行っています。

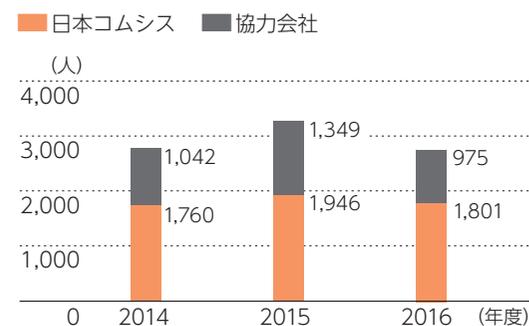
さらに、日本コムシスでは、職場の課題をチームで解決する取り組みとして、「QC (Quality Control) 活動」を実施しています。チーム構成は、日本コムシス社員チーム、日本コムシス社員+協力会社社員チーム、協力会社社員チームとさまざまです。2016年度からは、職

場内コミュニケーションの充実による、働きやすい職場づくりを目指すとともに、安全文化の構築にもつながる活動として、全社で5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) 小集団活動にも取り組み始めました。

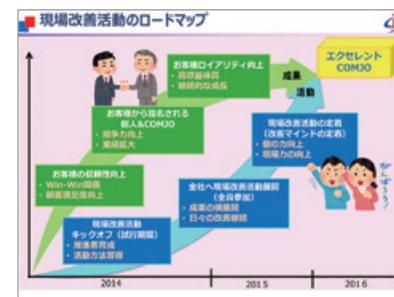
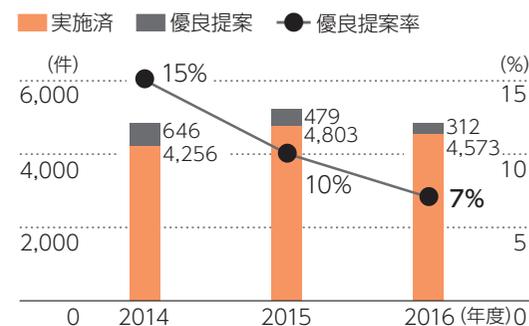
COMJOでは、現場改善活動を2014年から開始しています。活動メンバー数は社員の98%となり、ほぼ全社員がさまざまな形で現場改善活動に日々取り組んでいます。目標であった改善マインドの定着も進んでいるため、お客様の信頼性やロイヤリティの向上につながっています。COMJOは、厳しい競争を乗り越えていくために、今後も現場改善活動を深化させて現場力を向上し、お客様からのさらなる信頼性向上を目指します。

CSSでは、2007年以降、5Sの徹底、ムリ・ムダ・ムラの排除、処理時間の短縮や業務精度向上などに着眼したカイゼン活動を継続しています。2016年度は、上期・下期ともに20チーム以上が参加し、毎月の活動進ちょく報告、活動発表会を実施しました。全社の情報を共有することで、各拠点での水平展開が実現されています。この活動を通して、事務処理作業の効率化・標準化を推進し、その結果をSOP (業務処理標準手順書) にまとめ、多能工化を実現するとともにグループ内共通業務の集約化を進めています。

メモ提案の社員など参加状況の推移 (日本コムシス)



メモ提案の実施済・優良提案数の推移 (日本コムシス)



現場改善活動の取り組み (COMJO)

## 全国改善活動発表会を開催

日本コムシス

TOSYS

日本コムシスでは、2016年10月28日、大崎ビル会議室において全国改善活動発表会を開催しました。

この取り組みは活動成果を共有し他部門への展開を図ることを目的として、年1回実施しています。大会では、TV会議やインターネット配信も利用し、会場参加できない方々にも参加機会を提供しています。また、大会発表が活動目的にならないよう、年間を通じての活動や、翌年大会での成果発表にも取り組んでいます。

TOSYSでは、2016年7月27日、各拠点をTV会議システムで結び、TOSYSグループ小集団活動発表会を行いました。この取り組みにはTOSYSグループ約990名、143チームがエントリーし、今回の発表会には各社、各事業所内から選抜された10チームが発表を行いました。



日本コムシス  
全国改善活動発表会  
2016



TOSYSグループ  
小集団活動発表会

## 技術賞およびSKY選奨を受賞

日本コムシス

TOSYS

つうけん

2016年6月7日に開催された「情報通信エンジニアリング協会 (ITEA) 第59回定時総会」において、第34回技術賞、第29回SKY (創造・改善・躍動) 選奨の受賞式が行われ、日本コムシス、TOSYS、つうけんの社員が出席しました。



技術賞・SKY選奨を受賞(つうけん)

技術賞は情報通信設備工場の品質向上に対する寄与が評価され、SKY選奨は、SKY・VE提案とその実践による現場の士気高揚に対して贈られます。

日本コムシスは技術賞1名、SKY選奨1名、TOSYSは技術賞1名、つうけんは技術賞1名、SKY選奨を3名が受賞しました。

## 品質向上のための技術開発

### IT武装化(タブレット端末の活用)

日本コムシス

サンコム

コムシスグループでは、通信建設工場の効率性、安全性および品質の向上を図るために、ワークフロー(作業工程)の統一と現場作業のIT化を推進した「施工ITプラットフォーム」の構築を行っています。

主にタブレット端末をツールとして活用したシステムで、従来は膨大な紙ベースの手順書で確認していた作業を、端末画面に呼び出したワークフローに沿って行うことが可能となりました。ビジュアルで手順を理解することができるなどの利点があるほかに、タブレット端末と本社のサーバーの連動により、朝のミーティングから現場作業での各作業プロセスの進捗を確認できる仕様になっていることから、本社にいてもリアルタイムで点検、承認することが可能です。システムの導入により、安全性と作業効率が格段に向上しています。

現在、日本コムシスが手掛けるNTTアクセス工事では、USSS(ユースリーエス)・ASSS(エースリーエス)、NTTネットワーク工事では、NCPC(エヌシーピーシー)、NTTモバイル工事では、DarwinMobile(ダーウィンモバイル)システムを構築し運用しています。そして、サンコムが手掛けるNCC工事(New Common Carrier、NTT以外の通信工事)においては、SunMOS(サンモス)というシステムを構築し運用しています。

今後は、NTT工事・NCC工事以外のITソリューション関連工事、社会システム関連工事への導入を図ると

ともに、さらに次のステップでは通信建設工事以外の建設工事にも展開していく予定です。



NCPC1台でネットワーク系の各種作業をサポート



NTTモバイル工事でのDarwin Mobileの利用イメージ



SunMOSにより現場状況を撮影

## 写真検査システム

日本コムシス

TOSYS

つうけん

日本コムシス、TOSYS、つうけんでは、作業効率と品質の向上を目的とし、「写真検査」を実施しています。

写真検査システムは、設計、施工、施工管理、施工班の役割を明確にし、サプライチェーン・マネジメントの考え方に基づいて管理する「プロセス管理システム」に「写真検査システム」を連動させたものです。

設計で設備番号単位に工程集計した設計データを、施工管理が施工班の割り付け・施工指示に活用しています。作業班は撮影指示情報(場所、撮影パターンなど)を受信し、指示情報をもとに撮影することで撮影漏れがなく、撮影後の編集稼働も一切ありません。また、日本コムシスおよびつうけんでは、2016年第2四半期にはセキュリティおよび機能向上を図るため検査用端末を携帯端末からスマートフォンへ全面的に切り替え、さらなる施工品質の向上、完成図の精度向上につなげています。

写真検査では、写真検査員を品質保証センタに集約することで、検査員の稼働、検査スキルの標準化および品質向上を図っています。また、社内システムに開設した「写真検査フォーラム」では、現場からの質問、意見提起、改善提案などの回答、写真検査の写真撮影方法を公開し、社内およびグループ関係者全員が閲覧できるよう情報共有を図っています。

## 作業標準書の運用

サンコム

サンコムが所有する、NCC (New Common Carrier) 工事に関する各種技術ならびに安全資料の有効活用と次世代への継承を目的として、「最重要作業標準書」「サンコム安全・技術標準書」「サンコム技術ライブラリー」という3つのカテゴリーに分類した「サンコム技術安全標準」を定めています。

サンコム社員およびパートナー会社全員が絶対に守らなければならないものを「最重要作業標準書」とし、カテゴリーの頂点に定めています。



作業標準書

## 国土交通省からの表彰

### サンコム

2016年10月7日、平成28年度「優秀施工技術者国土交通大臣顕彰」および「青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰」被顕彰者の決定および顕彰式典



顕彰者集合写真

が開催されました。サンコムからは「優秀施工技術者国土交通大臣顕彰(建設マスター)」に2名、「青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰(建設ジュニアマスター)」に2名が選ばれ、女性1名がサンコムで初めて受賞しました。サンコムは、これまでに2名が顕彰を受けており、今後も優秀な技術者の育成に取り組んでいきます。

## お客様満足度向上に向けた取り組み

## お客様とのコミュニケーション

### 各種フォーラムへの出展

#### ● つくばフォーラム2016

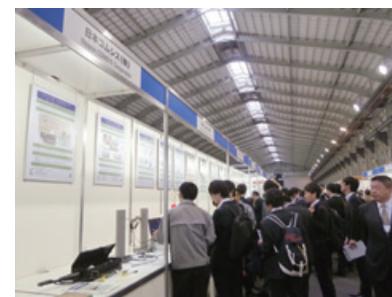
日本コムシス TOSYS つうけん

2016年10月25～26日の2日間にわたり、NTTアクセスサービスシステム研究所およびつくば国際会議場において、「豊かな暮らしを共に創る、進化した社会インフラへ～NetroSphere構想の実現に向け変革するアクセスネットワーク～」をテーマに「つくばフォーラム2016」が開催されました。

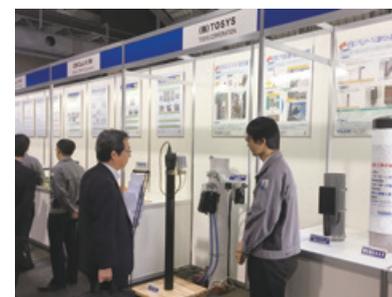
日本コムシスでは、「新しい防草対策の考案」「屋外線の仮留め把持具」など、11件のさまざまなデモンストラレーションや展示を行いました。

TOSYSからは、安全に関する取り組み(柱上からの転落防止)として「D環改良型安全带(TOSYS仕様品)」、架空線路の地下配下に伴う課題解消に向けた取り組みとして、「地下配エリア引込柱に適用する並列設置金物」などのほか、川中島建設の「岩石の崩落を防ぐDKボンド工法」など計8点について展示・紹介し、来場者からの専門的な質問にも対応し、ご好評をいただきました。

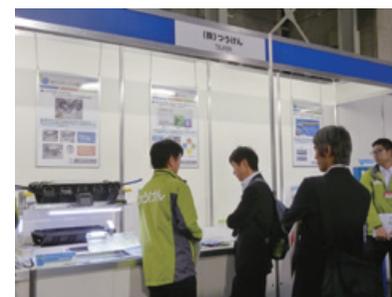
つうけんからは、「光トレルの電動化」、「地下クロージャ接続作業台」など4点を展覧しました。



日本コムシスブースの様子



TOSYSブースの様子



つうけんブースの様子

## ● 西日本ICTフォーラム2016

### 日本コムシス

2016年9月14～15日の2日間にわたり、大阪市中央区のマイドームおおさかにおいて「西日本ICTフォーラム2016」が開催されました。



西日本ICTフォーラムの様子

日本コムシスは、現場状況を作業班と現場事務所で共有することができる「安全危機管理システム」を紹介しました。これは、各作業現場にて行う作業前ボイスKY（危険予知）活動の音声データ・作業範囲の安全対策状況の写真データを現場事務所に転送するシステムです。

### 地球への配慮

## 環境に配慮した事業活動の促進

### 環境マネジメントシステム「ISO14001」

#### 日本コムシス

#### サンコム

#### TOSYS

#### つうけん

日本コムシス、サンコム、TOSYS、つうけんでは、事業活動における自主的な環境保全への取り組みとして、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築し、認証を取得しています。毎年ISO認証機関による第三者審査を受審し、PDCAサイクルをまわすことで、環境マネジメントシステム体制の維持に努めています。

### ISO14001 取得状況(2017年3月末現在)

会社名	登録範囲	初回登録年月
日本コムシス	全社	2001年5月
サンコム	通信ネットワーク事業本部 モバイルネットワーク本部 社会システム事業本部 営業本部 社会システム事業本部 フィールドネットワーク本部 社会システム事業本部 コンストラクション本部 安全品質管理本部 各支店	2005年3月
TOSYS	本社、ほか28事業所	1999年12月
つうけん	本社	2004年5月

## 太陽光発電システム導入の取り組み

### 自社ビルに太陽光発電システムを導入

#### 日本コムシス

#### サンコム

#### TOSYS

オフィスでも実現可能な環境保全の取り組みとして、コムシスグループの拠点に太陽光発電システムを導入し、得られたエネルギーをオフィスで利用しています。



TOSYS本社綿内ビルに並ぶ太陽光パネル

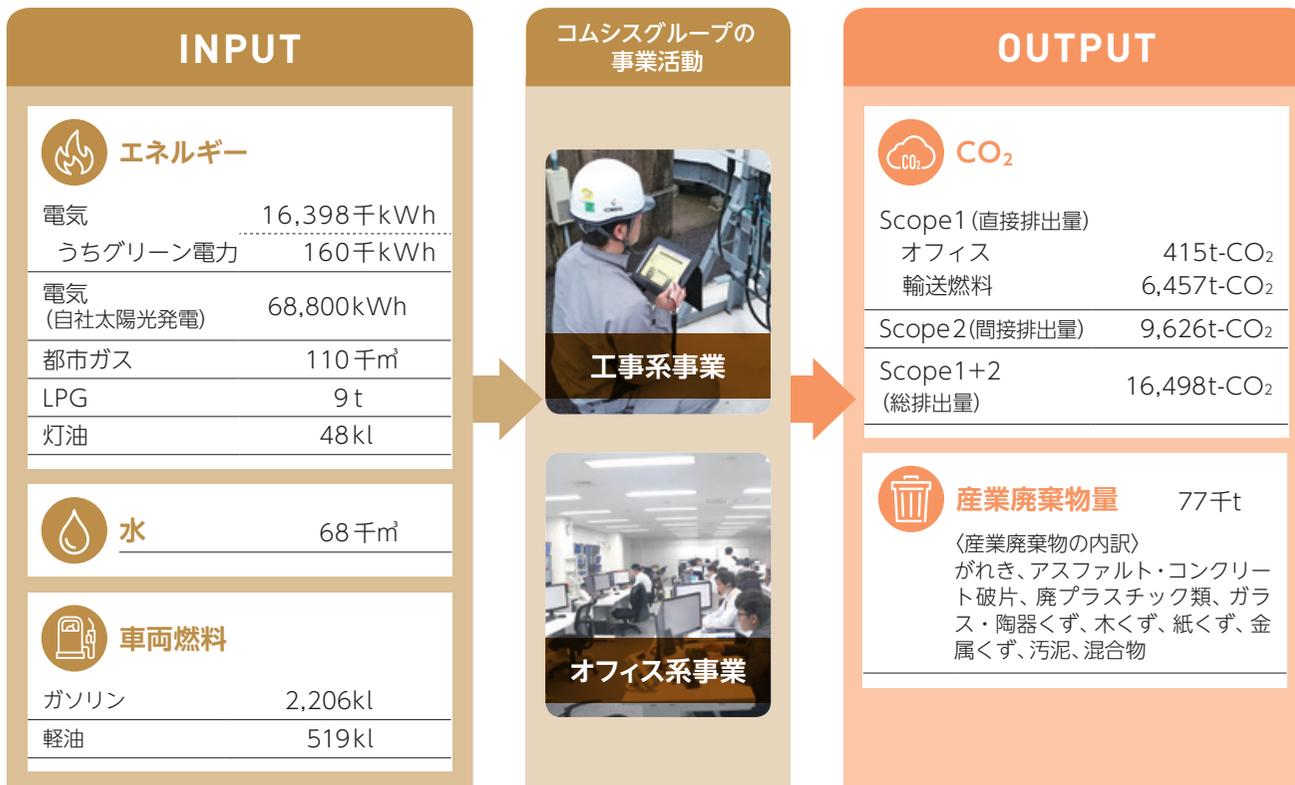
2016年度のコムシスグループ全体の太陽光発電による発電量は69千kWhでした。CO<sub>2</sub>削減効果は約40tで、杉の木に換算<sup>\*</sup>すると約4,500本となります。

<sup>\*</sup>杉の木換算：CO<sub>2</sub>削減効果をイメージしやすいように、杉の木のCO<sub>2</sub>吸収量に換算し、イメージしやすくする算出方法。  
40年生前後の杉の木1本が年間平均して吸収するCO<sub>2</sub>の量は約8.8kgです。  
(出典：農林水産省 林野庁「地球温暖化防止に向けて」)

会社名	設置場所	最大出力	2016年発電量実績
日本コムシス	コムシス大宮ビル	5kW	3,361kWh
	世田谷TS (テクノステーション)	10kW	
サンコム	本社ビル	10kW	11,601kWh
TOSYS	本社綿内ビル	50kW	53,833kWh

さらに、日本コムシスのコムシス平林ビルとサンコムの東海支店ビル、TOSYSの新潟的場ビル、東信事業所ビル、松本ビル、トースイス新潟本社ビルでは、コムシスクリエイトが事業主となり屋上に太陽光発電設備を設置し、全量買取制度により電力会社へ売電しています。

## コムシスグループのマテリアルバランス



対象：コムシスグループ各事業会社の本社ビル、支店ビル、一部のTS(テクノステーション)。  
 ※ 電気については、個別メーターがないフロアでは面積案分値を使用しています。  
 ※ 水については、入居ビル賃料に使用量が含まれる場合は対象外としています。  
 ※ ガソリンおよび軽油については、各社のリース車両による燃料使用量を対象としています。

## 温室効果ガスの削減に向けた取り組み

### コムシスグループ

CO<sub>2</sub>排出量の削減には太陽光発電システムの構築といった環境対応型の事業や製品を通じた方法もありますが、コムシスグループでは「ISO14001」を活用した環境マネジメントシステムを運用しながら、CO<sub>2</sub>排出量の削減をはじめとする環境負荷の低減にも取り組んでいます。

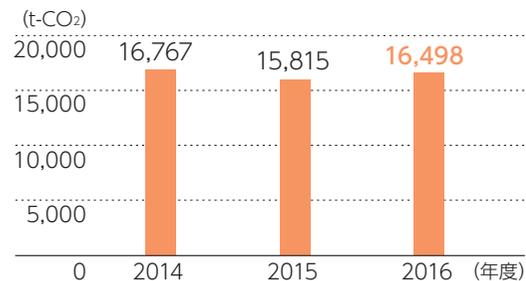
コムシスグループの事業は「エンジニアリング事業」と「ICTソリューション」に分けられますが、業務の徹底的な効率化を図る全社的な「カイゼン」の取り組みにより、CO<sub>2</sub>排出量の継続的な削減が図られています。作業現場では、工事作業車などのエコドライブの徹底や省エネ効果の高い作業機材の使用を通じて、また、各オフィス・作業所では節電対策など(太陽光発電システムの導入を含む)を通じて削減を図っています。

さらに、社員がボランティア参加して植林を行う「コムシスの森づくり」などを通じ、生物多様性を含む地球環境の保全に関する理解を深める活動なども続けています。

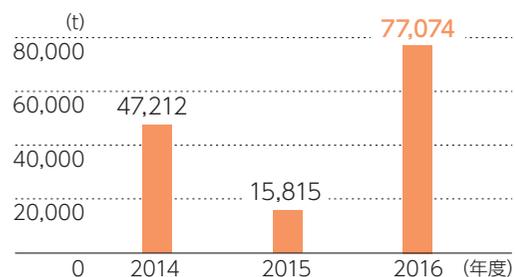
## グループ全体のCO<sub>2</sub>排出量と産業廃棄物量の推移

### コムシスグループ

#### CO<sub>2</sub>排出量の推移



#### 産業廃棄物量の推移



## オフィスその他における取り組み

### タブレット端末によるペーパーレス化

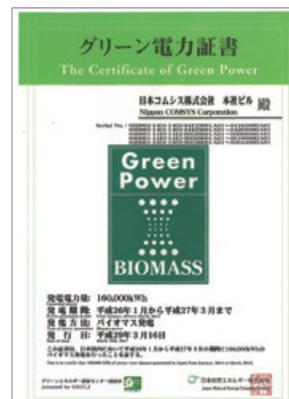
日本コムシス サンコム COMJO CSS

日本コムシス、サンコム、COMJO、CSSでは、タブレット端末を利用した高セキュリティの会議システムを社内で構築し、自社の経営会議などで運用しています。会議体改革とペーパーレス化を実現した新しいワークスタイルで、さらなる効率化とオフィスの省資源化を目指しています。

### グリーン電力の購入

日本コムシス

日本コムシスは、日本自然エネルギー株式会社が提供する「グリーン電力証書システム<sup>※</sup>」を採用しています。2016年度は本社において年間合計16万kWhのグリーン電力を購入しました。これは本社の年間電力使用量の約8.02%に相当します。



グリーン電力証書

※ グリーン電力証書システム：間接的なCO<sub>2</sub>排出量削減効果を持つ自然エネルギーの「環境付加価値」を、自然エネルギー発電事業者が第三者機関の認証により「グリーン電力証書」という形で発行。証書を購入した企業の電力使用量のうち、購入相当量が自然エネルギーによるものとみなされ、その費用は自然エネルギーの普及に役立てられます。

## 資源の有効活用に関する取り組み

### 工事現場におけるリサイクル用品の活用

日本コムシス サンコム TOSYS つうけん

コムシスグループでは、「ISO14001」の活動プログラムの一つとして、所内系全現場で工事残材・事務所内廃棄物を分別処理することにより、リサイクル資源の保護に貢献しています。

### グリーン購入の推進

日本コムシス

日本コムシスでは、環境への負荷を考慮して事務消耗品におけるグリーン購入を推進しています。2014年度以降、毎年およそ80%を維持しています。

### 環境保全について考える取り組み

## 環境保護と生物多様性の維持に向けた森づくり

### コムシスグループの森づくり

コムシスグループ

日本コムシス、サンコム、COMJO、CSSでは、コムシス森林サポーターとしての活動を行っています。

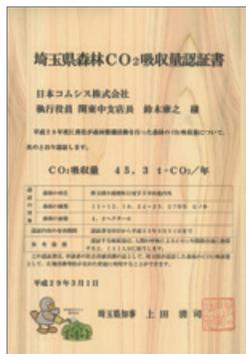
この活動は、2006年3月に、社団法人(現 公益社団法人)埼玉県農林公社様と「日本コムシスの森づくり

協定」を締結し、日本コムシスグループおよび協力会社の社員やその家族の、“コムシスグループ森林サポーター”としてスタートしました。そして、2007年10月からは、「コムシスグループの森づくり協定」を締結し、新たにコムシスグループとしての活動に広げました。2011年には、埼玉県を加えた「埼玉県森づくり協定」を締結し、2016年には協定の有効期間をさらに5年間(2021年まで)更新しました。

2016年度は、埼玉県毛呂山町大谷木字鶯谷地内などでの3.7ヘクタールに及ぶ枝打ちや間伐などを行いました。この活動は、同制度において45.3t-CO<sub>2</sub>/年のCO<sub>2</sub>吸収効果が認められたため、日本コムシスとサンコムは、埼玉県知事より「埼玉県森林CO<sub>2</sub>吸収量認証書」を交付いただきました。45.3t-CO<sub>2</sub>/年のCO<sub>2</sub>吸収量は、141名分の呼吸による年間CO<sub>2</sub>排出量に相当します。

さらに、2016年3月には本活動が11年目を迎えたことから、公益社団法人埼玉県農林公社様から感謝状をいただきました。

今後も森林の日当たりをよくし、樹木の成長を促す「枝打ち」などを定期的に行い、地元の人々との連携を深めながら、環境保護に取り組んでいきます。



2016年度埼玉県森林CO<sub>2</sub>吸収量  
認証書(日本コムシス)



感謝状

このほか、TOSYSでは、毎年恒例となっている「TOSYSの森林」整備作業を2016年5月に実施しました。当日は、社長をはじめとして新潟・長野県内からTOSYSグループの社員約100名が参加し、鎌やのこぎりを手し、下草刈りや倒木の処理、傷んだ歩道や林道の整備などを手際よく行いました。

また、つうけんでは、自然保護の観点から北海道石狩市に1ヘクタールの「つうけんの森」を所有するとともに、紋別郡では森林の「緑のオーナー」となっています。この「緑のオーナー」は、北海道森林管理局主体による国有林の保護事業の一環であり、つうけんは約5.75ヘクタールのオーナーとして登録し、自然保護活動に取り組んでいます。このような活動の積み重ねが社員の自然環境保全に対する意識を向上させており、今後も、自然環境保全に少しでも役立てるよう継続して活動を行っていきます。



## 屋上緑化「グリーンポテト」の サツマイモ収穫会を実施

日本コムシス

2016年11月14日、本社ビル屋上において、オーバルコート大崎マークウエスト管理組合様の下、グリーンポテトの収穫会を行いました。



グリーンポテト

とは、培地バッグを利用したサツマイモの水気耕栽培による屋上緑化システムで、都市のヒートアイランド現象対策の一つとして期待されています。また、栽培された作物の収穫を通して、入居者および近隣の皆さまと交流する場にもなっています。

働きやすさへの配慮、モチベーションの向上、パフォーマンスの発揮

# 人財

「人こそ宝」という考えから、働きやすい職場づくりや「人財」育成に注力します。



## 基本的な考え方

「人こそ宝」という考え方にに基づき、人権の尊重をはじめ、ワークライフバランスの推進やダイバーシティの推進、社員と経営層とのコミュニケーションを通じて、働きやすい職場づくりに努めます。また、技術・知識の向上など人材育成を通じて、高品質なサービスの維持・強化を目指します。

## 人権の尊重

### 人権の尊重に関する取り組み

#### 人権教育

##### コムシスグループ

コムシスグループでは基本的人権を尊重し、性別・年齢・人種・出身・宗教・障がいの有無などを理由として、業務を進める上で差別をしないことを基本倫理としています。

また、人権に対する意識を社員に浸透させるため、階層別研修などで人権教育に取り組んでいます。

## ハラスメント対策

##### コムシスグループ

コムシスグループでは健全な職場環境を実現するため、パワーハラスメントやセクシュアルハラスメントなどに関する研修を実施しています。また、相談窓口を設置し、早期発見と相談者への対応を行っています。

## 健康管理

### メンタルヘルス・マネジメントの強化

#### メンタルヘルス研修の実施

##### コムシスグループ

コムシスグループでは、職場のメンタルヘルス強化の

取り組みとして、職場内でのメンタルヘルスの現状やストレスと上手に付き合う方法について毎年メンタルヘルス研修を行い、ストレスケア、同僚・部下の異変に気づく方法などの健康サポートを行っています。また、社員からの心の悩みなどに関する相談は、専門家によるカウンセリングを電話や面談を通じたフォロー体制により実施し、健康管理に努めています。

## ストレスチェックの実施

##### コムシスグループ

コムシスグループでは、2016年3月から、労働安全衛生法に基づく「心理的な負担の程度を把握するための検査等」(ストレスチェック)を順次実施しています。

高ストレス者へは、当社指定の産業医によるカウンセリングや外部Webシステムを活用したセルフチェックを実施しています。これにより、社員のストレスの程度

を社員自身に気づかせることを促すほか、働きやすい職場づくりを進めることで、社員のメンタルダウンを未然に防止（一次予防）することができます。

また、社員であれば誰でも利用が可能なメンタルヘルスに関する相談窓口を開設し、ヘルスケアの一助として活用できるよう取り組んでいます。

## 健康推進活動

### サンコム

サンコムは、仕事に従事する社員一人ひとりの健康増進は、サンコムグループ全体の最大のリスク回避策と位置付けています。社員一人ひとりが小さな健康管理を実践する健康増進の一環として「健康標語」を募集し、健康標語を日めくり形状にして関係部署、パートナー会社に配布しました。



健康標語ポスター



標語の一例

## 社員のレベルアップ

# 研修プログラムの充実

## 階層別研修の実施

### コムシスグループ

コムシスグループでは、キャリアアップを目的として階層別研修を実施しています。新規採用者基礎研修（グループで116名）や、入社から1年後のフォローアップ研修（グループで92名）、若手社員の3年目のフォローアップ研修（グループで74名）、また、中堅社員や管理者を対象とした研修など、各ステップアップ時にさまざまな研修を実施しています。



新規採用者  
基礎研修の様子



フォローアップ研修  
(1年目)の様子

## 新任管理職・評価者研修の開催

### コムシスグループ

日本コムシスでは、2016年度に管理職へ昇格した社員を対象に、新任管理職・評価者研修を実施し、社長より管理職に求められるマネジメントとはなどについて話がありました。

また、TOSYSでは2016年5月に長野・新潟両県域で評価者研修を実施し、2会場合わせて約100名の管理者（評価者）が参加、人事評価の適正な運用を行うための研修を開催しました。当日は、社員との目標達成状況の確認、次年度の全社・事業部・部門目標を達成するための個人目標の設定と取り組み、具体的なコミュニケーションのとり方などについて、事例を交えたレクチャーを受けました。2017年1月には労働基準法の一部改正、育児介護に関わる休暇休業規定の改正に合わせた周知、また、ハラスメントとして「パタハラ<sup>\*</sup>」の防止に向けた制度の浸透を図りました。

つうけんでは、「激しく変化する事業環境を意識し、自ら行動し会社を変革する管理者（部門経営者）を目指すために必要な意識改革および必要スキル付与を行うこと」を目的に、部外講師による組織長を含めたマネジメント研修を実施し25名が参加しました。また、評価者研修ではTV会議システムも利用し全道の管理者を対象とし約110名が参加しました。

<sup>\*</sup> パタハラ：パタニティ（父性）ハラスメントの通称。男性が育児にもっと積極的に関わるために、育児休業をはじめとする諸制度の利用することに対して、上司や同僚から言動などにより妨害される行為。



新任管理職研修の様子(日本コムシス)



評価者研修の様子(TOSYS)

## CS向上研修を実施

日本コムシス サンコム

日本コムシス、サンコムでは、宅内工事におけるお客様満足度(CS)向上を目指し、一般的なマナーからお客様対応時のマナーまでを再確認し、一人ひとりの意識を高めるためのCS向上研修を実施しています。

## 現場代理人資格任命制度(PE制度)運用開始

日本コムシス

日本コムシスのNTT事業本部は、現場代理人制度見直しの取り組みとして、「現場代理人資格任命制度(PE制度)」を運用開始しました。この制度は、現場代理人として必要なスキルを客観的に判定し、資格認定(社長認定)するもので、受講者は事前にeラーニングで学習し、テストに合格した後、2日間の特別研修を受講します。2017年2月から10回にわたり「プロフェッショナルエンジニア特別研修」を実施し、約380名にプロフェッショナルエンジニア認定証が交付されました。



プロフェッショナルエンジニア特別研修の様子



社長より認定証を交付

## プロジェクトマネジメント研修を開催

COMJO

COMJOでは、システム開発など情報システムを支えるうえで不可欠であるプロジェクト管理のレベル向上、不採算プロジェクトの撲滅を目的に、プロジェクトマネジメントスキルを高める研修を行っています。2016年度は、外部講師を招いて、プロジェクトリーダーを中心に「プロジェクトマネジメント研修」「見積研修」を開催し、合計34名が受講してスキルの向上を図りました。

## 各種研修の開催

CSS

CSSでは、総務・人事・経理・財務などの共通業務のアウトソーシングを主軸にさまざまなソリューション事業を展開しており、新規入場者(契約社員(短期含む)や派遣スタッフも含む)向け受入研修を対象者全員に実施しているほか、情報セキュリティや個人情報保護・コンプライアンス・リスクマネジメントについての研修を定期的に行っています。

今後もさまざまな研修を通じ、グループ内外のお客様に一層信頼いただけるサービス提供、人材育成を目指します。

## 若手育成のための施策

### インストラクター・メンター制度

#### 日本コムシス

日本コムシスのNTT事業本部アクセスシステム部では、発注元や現場に携わるすべての人たちに信頼され、どのような場面でも設計～施工・竣工までを円滑にマネジメントできる柔軟な人材を育成するため、インストラクター制度による若手社員育成を行っています。

また、ドコモ事業本部では2008年よりメンター制度を実践しており、入社1～3年目を弟・妹、5～6年目を兄・姉、現場代理人以上を長男・長女、担当課長以上を親として役割分担し、社歴の浅い社員の支援活動を行っています。

## 技術・知識の向上に向けた取り組み

### 技能競技大会を通じた作業スキルの向上

#### コムシスグループ

コムシスグループ各社では、さまざまな技能競技大会を通じて人材の育成と品質の向上に努めています。

各競技大会は、技能者の施工技術や技能レベルを競い合うだけでなく、情報通信工事技術の向上や日々進化する材料・工法を全社へ浸透・展開させることを目的に実施しています。

各エリアの技術者を競わせ切磋琢磨させることにより、技術者のモチベーションを高め、グループ全

体の技術力強化と向上および技術交流を図っています。

### 情報通信エンジニア優良団体表彰

#### TOSYS

2016年11月17日、TOSYSは、「情報通信エンジニア資格の取得に積極的に取り組んでいる」として、一般財団法人日本データ通信協会から「平成28年度情報通信エンジニア優良団体」として表彰されました。これで7年連続の表彰となります。



表彰状



情報通信エンジニア優良団体表彰受賞

### 現場力向上フォーラム

#### つうけん

NTT東日本グループ様主催の「第10回現場力向上フォーラム」が、2017年1月18～19日、NTT中央研修センターにおいて開催され、つうけんからは11名が参加し、「NGN系サービス・設備回復」に出場した大久保選手が、第2位に輝きました。



第10回現場力向上フォーラム」表彰式

### プログラミング技術競技会開催を通じたスキル向上

#### COMJO

COMJOでは、同業他社とのプログラミング技術競技会 (TRIANGLE CUP) を毎年開催しています。開催にあたり、若手社員を対象とした社内予選会を実施し



予選会の様子

て、出場選手を選抜するとともに、社員のプログラミング技術の向上に努めています。

## 優良派遣事業者認定への取り組み

### CSS

2015年3月、CSSは、平成26年度厚生労働省委託事業優良派遣事業者推奨協議会が定める「優良派遣事業者」に認定されました。認定されるには、法令を遵守しているだけでなく、派遣社員のキャリア形成支援やよりよい労働環境の確保、派遣先でのトラブル予防など、派遣社員と派遣先の双方に安心できるサービスを提供できているかどうかについて、一定の基準を満たす必要があります。この優良派遣事業者の認定には有効期間があり、3年ごとに更新が必要となります。今後もさらなるサービス向上に取り組み、お客様やスタッフの皆さまにご満足いただけるサービスの提供をお約束します。

## 資格取得の推進

### コムシスグループ

コムシスグループ各社では、社員の資格取得に積極的に取り組んでいます。

日本コムシスでは、業務に関わるさまざまな資格取得を推奨しており、資格の種類によっては取得に際して一時金を支給しています。主な資格保有者数は3,023名となっています。

サンコムでは、資格取得に関する講習参加費用や受験費用を会社が負担するとともに、資格取得奨励金の対象資格の拡充を図っています。

TOSYSでは、会社が推奨する資格取得については取得費用を負担するとともに取得一時金を支給しており、

また、社外研修会や講習会へ積極的に参加することによって、一般財団法人日本データ通信協会から「情報エンジニアリング資格の取得に積極的に取り組んでいる」として表彰されました。

つうけんでは、会社が推奨する資格に対し資格取得奨励金を支給しています。

CSSでは、経理・財務・人事系の資格を中心に、情報処理系、不動産系の資格取得を推奨しています。資格取得費用を会社負担にするとともに、指定した資格については、資格取得奨励金として一時金を支給しています。

各社の主要資格の取得状況は52ページのとおりです。

## 社員とのコミュニケーション

## 経営層と社員のコミュニケーション

## 社長対話会の開催

### コムシスグループ

コムシスグループでは、各社のトップと社員とが直接コミュニケーションを図ることができる「対話会」などの交流の場を設けています。それ

ぞれが「垣根」を取り払い、さまざまなことについて気兼ねなく話し合える有意義な機会として、積極的に活用されています。

日本コムシスでは、社長が全国各地の支店や現場を訪問し、日ごろの安全に対する意識、新規ビジネスに対する思いなどについての講話や社員および協力会社社員との対話会を行っています。

つうけんおよびサンコムでは、社長が全職場を訪問し、社員と直接コミュニケーションをとって意見交換を図っています。

COMJOでは、社長や経営幹部が全社員に事業計画などについて直接説明するとともに、各職場の現状について対話する、キックオフ大会を年2回開催しています。また、社長や経営幹部がお客様訪問のため事業所に出張する際も、事業所社員を対象に対話会を実施しています。



下期キックオフ大会の様子 (COMJO)

## 本部長などとの意見交換会を実施

### 日本コムシス

日本コムシスのNTT事業本部では、各工事事務所において本部長キャラバンを実施しており、工法の遵守、基本動作の徹底について注意喚起を行っています。



現場代理人会議の様子

またドコモ事業本部では、年2回、現場代理人と本部社員を交えて現場代理人会議を行っており、本部長より安全に関する注意喚起や各部門長から最新の業務状況について説明しています。

## ホットラインを開設

### 日本コムシス

### TOSYS

### COMJO

日本コムシス、COMJOでは、マネジメント層に疑問や意見を直接伝えることができるホットライン「CANライン」を社内ポータルサイトに開設しています。またTOSYSでは、風通しのよい職場づくりを目指し、2008年から社内に投書箱「わたしの風」を設置しています。寄せられたさまざまな意見については、関係部門で対応策を協議し、改善に努めています。

## ダイバーシティの推進

## 多様な人材の積極的な活用

### 女性活躍推進法への対応

#### コムシスグループ

コムシスグループ各社においては、2016年4月1日に施行された「女性活躍推進法」に基づき、それぞれが課題に対する目標を設定し、取り組み内容と実施時期を定めています。

各社の目標は下記のとおりです。

会社名	目標	計画期間
日本コムシス	<ul style="list-style-type: none"> <li>新卒採用者に占める女性割合を20%にする</li> <li>管理職に占める女性比率を現在の2倍以上にする</li> </ul>	2016年4月1日～2019年3月31日
サンコム	<ul style="list-style-type: none"> <li>新卒採用の応募者における女性割合を20%以上にし、採用者に占める女性比率を15%以上にする</li> </ul>	
TOSYS	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性の採用比率20%を目標</li> </ul>	2016年4月1日～2021年3月31日
つうけん	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規採用に占める女性比率を20%以上とする</li> <li>女性社員の役付職(課長、課長代理、主任など)比率を10%以上とする</li> </ul>	
COMJO	<ul style="list-style-type: none"> <li>9～11年目の継続雇用の割合について、男女の差異を15%以内とする</li> </ul>	

## 女性活躍推進の取り組み

日本コムシス

つうけん

日本コムシスでは、女性活躍推進法の施行を受け、2016年4月に女性活躍推進PT(プロジェクト)を発足し、月に一度メンバーが集まり議論を重ねています。メンバーは、各事業本部の企画部長など女性社員だけでなく、男性も含め構成されており、支店のメンバーは毎回TV会議で参加をしています。

同8月には、公益財団法人21世紀職業財団の高松和子事務局長に、「女性活躍推進の必要性と課題」について“今なぜ、女性登用が必要なのか？”などをご自身の経験談からご講演いただきました。9月には、全メンバーが本社に集まり、「日本コムシスの女性活躍のゴールについて考える」をテーマに、年齢・役職の近い人同士でグループに分かれて議論し、発表を行いました。

また、2017年1月に、関西支店にて、関西・東海エリアの女性社員を対象とした交流会を開催しました。

現在は、「採用」「キャリア形成」「労働時間削減」「モチベーション向上」「意識改革」の5つのテーマに分かれて、ワーキンググループ活動を行っています。

つうけんでも、女性の家庭・育児と仕事の両立を支援しており、「つうけん女性活躍推進法の行動目標」を作成しています。2016年10月には大村社長をかこみ「役員と語る会in札幌」を開催し、札幌エリアで働く女性社員21名が参加しました。また、2017年2月には、全国から21名の女性社員が集めた、ITEA主催の「女性技術者交流会」が埼玉県で開催され、つうけんからも1名が参加しました。



役員と語る会in札幌(つうけん)



女性活躍推進PTの様子(日本コムシス)



支店女性社員交流会の様子(日本コムシス)



女性技術者交流会 危険体感研修での  
落差瞬間体験(つうけん)

## 女性向けキャリアデザイン研修を開催

日本コムシス

日本コムシスでは、2016年11月に、女性活躍推進の取り組みの一つとして、「女性向けキャリアデザイン研修」を行いました。



キャリアデザイン研修の様子

全国から28名の女性社員が参加してグループに分かれ、自分自身のキャリア、ワークライフバランスの実現などについて意見交換し、発表を行いました。

受講者からは、「年代や職場環境、仕事内容などが違う女性の意見が聞けて良かった」「ワークライフバランスを大切にしていきたい」「女性として輝きながら、管理職を目指したい」などの声があがりました。

## 次世代育成支援対策推進法に基づく取り組み

コムシスグループ

コムシスグループ各社は「次世代育成支援対策推進法」に基づき、それぞれの行動計画に沿った取り組みを行っています。日本コムシスでは2008年に、サンコムでは2011年に「次世代認定マーク(くるみん)」を取得しました。2016年度は、日本コムシスで18名が育児休業を取得したほか、サンコム4名、TOSYS2名、つうけん4名、COMJO2名、CSS2名が育児休業を取得、また各社において育児支援制度の一つとして、短縮勤務を実施しています。

## シニアエキスパート制度を導入

### コムシスグループ

コムシスグループでは、定年退職（満60歳）後に勤務する意欲があり、雇用基準要件を満たす人材を継続して雇用する「シニアエキスパート制度」を導入しています。長く勤務したベテラン社員の熟練した技術や知識を若い世代に継承するために重要な制度であると位置づけ、2017年3月末時点では、グループ全体で294名のシニアエキスパートを雇用しています。また、社員を対象としたライフプラン研修も行っています。これまでの人生と今後の働き方について考え、一個人として充実した豊かな人生を送ることを目的としています。

## ディーセントな労働条件の提供

## ワークライフバランスの推進

## エリア職社員制度を導入

### 日本コムシス

### サンコム

### COMJO

### CSS

日本コムシス、サンコム、COMJO、CSSでは、地元志向の優秀な人材の確保と定着を目指し、勤務エリアを限定した「エリア職社員制度」を導入しています。個人の価値観やライフスタイルが尊重され、長年住み慣れた地元で専門性を高めていくことができる、新しい働き方が可能となりました。この制度を利用し、2017年3月末現在、日本コムシスでは84名、サンコムでは49名、COMJOでは34名、CSSでは1名のエリア職社員が在籍しています。

## 介護休暇の実績

### コムシスグループ

高齢者人口の増加とともに、介護保険制度上の要支援・要介護認定者数は増加しており、介護者となりえる社員に対する支援は重要な課題となっています。コムシスグループ各社においては、「育児・介護休業法」に基づき、それぞれの行動計画に沿った取り組みを行っています。2016年度は、日本コムシスで2名が介護休暇を取得しました。

## 長時間労働の解消に向けた 労使間の取り組み

### コムシスグループ

コムシスグループ各社の労働組合は、情報産業労働組合連合会と連携しながら組合活動を行っています。春闘・秋闘では経営陣を交え、労使間で忌憚のない意見交換を行うなど、これまで培ってきた信頼関係の維持・発展に努めています。労働組合との協議を踏まえ、長時間労働の解消に向け、ノー残業デーの設定、産業医の活用など、施策を各社が推進しています。

サンコムでは、恒常的な時間外労働の削減に向けて、毎週水曜日と金曜日の2日を定時退社日に定め、社内放送にて促しています。また、「時間外勤務命令管理簿」の活用により、労使間の勤務管理を徹底しています。このほか、有給休暇取得推進のため、年間を通じての「ブリッジホリデー」（法定休日の間を年次有給休暇でつないで連休とするもの）を推奨しています。

TOSYSでは、長時間労働と恒常的な時間外労働を削減するために、労使間で定時退社日（毎週水曜日および

毎月の「安全誓いの日」）、年次有給休暇取得推進期間などの各種施策を通じて、社員のリフレッシュを図っているほか、長時間労働者への産業医による面談・指導などを行っています。

つうけんでは、労使間で密接な話し合いを行いながら、毎週水曜日を「ノー残業デー」に設定しているほか、長時間労働者への医師による面談・指導を法令で定める以上に充実させています。また、産業医からのアドバイスを広報誌に掲載するなどをして、社員の健康増進を強化しています。

COMJOでは、長時間労働による健康障害防止のため、深夜勤務・休日勤務の勤務管理者からの事前確認を徹底するなど、きめ細かな対応をすることにより、年間所定外労働時間の削減に努めています。

## 公正な人事評価・給与体系

## 成績に対するフェアな評価の実践

### コムシスグループ

コムシスグループでは、組織的な社員の育成を行う一方で、社員の業績をフェアに評価するための取り組みを積極的に行っています。各社で導入している目標管理制度では、上司と部下が面談する機会を設け、事業目標を共有した上で、各個人が実現可能なより高い目標を設定しています。評価については、個人の成果を数値化することにより公平性と透明性を確保し、組織単位での業績貢献度も加味するなど、多角的視点を取り入れています。業績と職務能力を公平かつ的確に評価できる制度とすることにより、社員のモチベーション向上に努めています。

人事データ 主要資格取得・従業員の状況(主要6社合計)

■ 主要資格取得状況表

会社名	主要資格	2016年度 新規取得数	累計数
日本コムシス	技術士	0	10
	シスコ技術者認定 CCIE R&S	1	93
	Red Hat Linux認定技術者 RHCA	0	1
	VMware認定資格 VCAP-DCA	2	5
	ITコーディネータ	0	10
	PMP(Project Management Professional)	5	35
	情報処理技術者(ネットワークスペシャリスト)	5	60
サンコム	1級電気工事施工管理技士	8	104
	第一種電気工事士	5	119
	CATV総合監理技術者	2	10
	第一級陸上無線技士	1	7
	消防設備士(甲種)	2	35
	AI/DD総合種(工事担任者)	4	58
	衛生管理者1種	2	21
TOSYS	電気通信設備工事担任者(AI第一種)	1	1
	電気通信設備工事担任者(DD第一種)	2	29
	電気通信設備工事担任者(AI・DD総合種)	1	77
	第一級陸上特殊無線技士	1	40
	第一種電気工事士	0	31
	1級電気工事施工管理技士	0	19
	1級土木施工管理技士	0	17
つうけん	監理技術者(電気)	1	20
	監理技術者(通信)	7	155
	監理技術者(土木)	0	23
	1級電気工事施工管理技士	0	23
	1級土木施工管理技士	2	34
	第一種電気工事士	1	16
	第一種衛生管理者	3	28
COMJO	PMP(Project Management Professional)	2	86
	情報処理技術者(データベーススペシャリスト)	2	7
	情報処理技術者(プロジェクトマネージャ)	2	2
	情報処理技術者(ITストラテジスト)	2	2
	情報処理技術者(情報セキュリティスペシャリスト)	1	9
CSS	建設業経理士(1級/2級)	17	57
	日商簿記検定(1級/2級)	8	34
	社会保険労務士	0	1
	衛生管理者1種	14	28
	宅地建物取引主任者	0	6
	経理・財務スキル検定レベル(A/E)	1	3
	マンション管理士	0	1

■ 社員数

	2016年度		
	男性	女性	計
社員数(人)	5,275	530	5,805
正規雇用	4,362	343	4,705
非正規雇用	912	187	1,099
外国籍	1	0	1
平均年齢(歳)	44.0	41.8	43.6
平均勤続年数(年)	13.3	8.3	12.8

■ シニアエキスパート

	2015年度	2016年度
シニアエキスパート数(人)	319	294

■ 各社の女性管理職者数・比率

		2016年度
日本コムシス	女性管理職者(人)	5
	女性管理職比率(%)	0.83
サンコム	女性管理職者(人)	1
	女性管理職比率(%)	0.66
TOSYS	女性管理職者(人)	1
	女性管理職比率(%)	0.74
つうけん	女性管理職者(人)	2
	女性管理職比率(%)	1.00
COMJO	女性管理職者(人)	2
	女性管理職比率(%)	2.80
CSS	女性管理職者(人)	11
	女性管理職比率(%)	24.44

■ 採用者数

	男性	女性	計
新卒採用者数(人)	112	13	125
中途採用者数(人)	119	11	130
定年後再雇用者数(人)	97	3	100

■ 両立支援制度利用実績

	男性	女性	計
育児休暇取得者(人)	1	31	32
育児休暇復職者(人)	1	26	27
介護休暇取得者数(人)	3	1	4

■ ワークライフバランス

	2016年度
平均有給休暇取得日数(日)	11.2

事業を通じた社会貢献、コミュニティへの積極的な参画を図る

# 事業を通じた社会貢献

災害時の通信インフラ復旧や災害防止、コミュニティへの積極的な参画を行います。



## 基本的な考え方

経営理念に掲げる「豊かな生活を支える社会基盤づくり」の実践として、社会インフラの整備に加え、災害時における通信インフラの迅速な復旧に努めています。またコミュニティへの積極的な参画を心掛け、地域イベントへの参加や交流イベントを開催し、お客様に選ばれ続ける企業となるよう努めています。

## 災害に対する取り組み

### 災害復旧

#### 糸魚川大規模火災への復旧支援

日本コムシス TOSYS

2016年12月22日、新潟県糸魚川市において、多くの住宅や店舗が延焼により消失する大火災が発生し、多くの通信設備が被災しました。これにより障害が起こった回線数は290回線、被災ケーブルは2.7kmという状況でした。

日本コムシスは、直ちに災害対策本部を立ち上げ、TOSYSグループのトーシス新潟とともに、NTT東日本 新潟支店災害対策本部と連携して、災害状況の把握や設備の撤去などを行い、通信サービスの早期復旧に取り組みしました。

火災現場は火がくすぶっていたり、足場がもろかったりなど危険な場所が多いので、作業者は特に注意を要します。現場への注意力を高める状況設定をするなど、復旧第一、安全第一で作業にあたりました。

被災ケーブルの撤去や火災エリア内での金融機関の復旧などへの迅

速な作業に対して、NTT東日本 関信越様およびNTT東日本 新潟支店様より、感謝状をいただきました。



火災現場復旧状況



NTT東日本 関信越様より  
感謝状をいただきました



NTT東日本 新潟支店様より  
感謝状をいただきました

## 大規模災害時における地域と事業所との支援協力について

### 日本コムシス

日本コムシスの東海支店では関西社会基盤事業部と協力し、2016年12月15日に名古屋市栄学区防災安心まちづくり委員会と“大規模災害時における地域と事業所との支援協力に関する覚書”を締結しました。



地域の防災に貢献していることを示す「地域防災協力事業所表示証」

東海エリアは、いつ大規模な地震が発生してもおかしくないといわれている地域です。特に名古屋市では多くの人が災害発生時に帰宅困難者になる可能性が高く、日本コムシスでもできることにしっかりと取り組んでいこうと考え、支店ビルの「1階共用部分を一時的な避難場所として提供する」「避難者に対して、1階のトイレを提供する」の2つを地域支援協力することにしました。



支店周辺の清掃活動の様子

今回の締結の他に、名古屋市主催の防災訓練に参加をしたり、支店周辺の清掃活動を定期的に行うなど、安心できるまちづくりに取り組んでいます。

## 電気自動車が世田谷区防災訓練に参加

### 日本コムシス

日本コムシスのNTT事業本部世田谷TSでは現在、電気自動車を2台所有し、夜間工事などに活用しています。

このうちの1台が、2016年11月と12月に世田谷区で行われた防災訓練に参加しました。

1回目の訓練では、災害時の電気自動車の利用方法を紹介し、2回目の小学校で行われた地域の防災訓練では、電気自動車の蓄電池を利用した携帯電話の充電体験を実施し、多くの方に災害時の電気自動車の活用方法を知っていただく好機となりました。



世田谷区の防災訓練に参加



電気自動車の電源から一度に携帯30台の充電が可能(赤がAndroid用、白がiPhone用)



子どもたちも興味深々



スマートフォン以外のケータイにも対応

### ● 現場の声



日本コムシス NTT事業本部 アクセスシステム部 首都圏アクセス事業部門 技術長補佐 竹田 清人

震災などで停電に陥ってしまっても、太陽光発電で蓄電した自給の電気を地域の皆さまにご提供できるのが、世田谷TSの強みです。



日本コムシス NTT事業本部 ネットワークシステム部 東日本ネットワーク事業部門 技術長 吉川 尚志

震災発生時を想定した具体的な質問もいただき、地域の皆さまの電気自動車に対する期待を感じました。



日本コムシス NTT事業本部 企画部 担当課長 山尾 健一郎

電気自動車の利用は発展途上にあり、今後の有効活用につなげるためにも、私たちが積極的に活用しノウハウを積み重ねていきます。

## 社会インフラへの貢献

### 利尻-礼文中継光 海底ケーブル復旧

つうけん

2016年12月2日、北海道北部の日本海に浮かぶ円形の島、利尻島にある利尻礼文局から5.2kmの距離で、陸揚げ部から300m程度海側で海底ケーブルが全断しました。この海底ケーブルは、利尻島と礼文島を中継するもので、島民にとっては重要なライフラインです。

真冬の海での海底ケーブルの復旧作業は非常に困難が伴いますが、無事復旧を終えることができました。

### 「とう道」の保守・運用工事

日本コムシス

日本コムシスの社会基盤事業本部では、地表から25mの深さにある「とう道」の保守・運用を行っています。「とう道」とは、東京都内に百数カ所あるNTT局舎同士をつなぐ地下トンネルのことで、この中には通信ケーブルが敷設されています。日本コムシスは、この通信ケーブルの破損や周辺のおさまな機器に故障がな



とう道での作業

いかどうかの保守・点検を常時行っていますが、業務はこれだけではありません。マンホールととう道をつなぐ管路の撤去や、とう道内部の劣化した空洞部分へのコンクリート充填、とう道内にケーブルを乗せるための金物設備の撤去更改なども行っています。さらに、とう道自体の撤去改修までも行うこともあります。

とう道の中に敷設されている通信ケーブルは私たちの通信をつなぐために必要不可欠なものです。日本コムシスは、これまで培ってきた技術を生かして、日本の通信が途絶えぬように通信インフラ整備に貢献しています。

## 海外における事業を通じた社会貢献

### 海外ODA案件への取り組み

サンコム

日本政府は、バングラデシュの各種インフラ整備の支援に力を入れており、サンコム海外部門としても、バングラデシュODA案件に取り組み、2015年度にバングラデシュ空港保安設備案件を住友商事様より受注し、2017年度完工しました。

本案件ではODA資金によるダッカ国際空港の航空保安設備近代化の一環として、カードによるドアコントロールシステムおよびベルトコンベアーを含むX線装置などを納入しました。バングラデシュでは、2016年7月に発生したダッカでのテロ事件を受け、ODAによりさらなるセキュリティシステムの構築要請・空港ターミナルの要請もあり、引き続きODA案件への取り組みを進め、海外社会基盤構築へ貢献していきます。

## 教育・文化での貢献

### インターンシップを実施

日本コムシス

サンコム

TOSYS

つうけん

日本コムシスでは、通信建設業界の認知度向上のため「日本コムシス1Dayインターンシップ」を開催しています。2016年度は、2017年2月に、アクセスとモバイルの2コースを実施したほか、新たに土木コースを設け、とう道などの現場を見学し、総勢56名の学生が参加しました。



現場見学(土木)の様子  
(日本コムシス)

サンコムでは、2017年2月に「1Dayインターンシップ」を実施しました。モバイルエンジニア体験、アクセス・ネットワークエンジニア体験、電設エンジニア体験の3コースを実施し、総勢で11名の学生が参加しました。参加者からは「実技や先輩エンジニアとの対話を通してより一層理解が深まった」などの感想が寄せられました。

TOSYSでは2016年8月2~4日までの3日間、長野県内の高校から2名の生徒を受け入れ、企業実習を实

施しました。企業概要と電気通信の仕組み、フレッツ光概要の説明のほか、現場見学、メタルケーブルと光ケーブルの接続演習を行いました。

つうけんでは、インターンシップを11年継続して実施しています。2016年度も8月に北海道内の大学から4名、2月にも4名の学生を受け入れ、事業概要説明のほか、光ケーブルの接続演習などを実際に体験してもらい、より実態に即した研修を実施することができました。

これらのインターンシップを経て、2010年度から2016年度にかけて毎年1～2名の社員が入社しています。



屋外キュービクル動作体験(サンコム)



メタルケーブルと光ケーブルの接続演習(TOSYS)



光ケーブル接続実習(つうけん)

## 子ども向けパンフレット「サンコムのしごと」作成

サンコム

サンコムでは、「お父さん、お母さんがどんな仕事をしているんだろう」をテーマに、写真や絵をふんだんに使用した小学校低学年向けの冊子「サンコムのしごと」を作成しています。



「サンコムのしごと」

## 社員家族の職場見学会

日本コムシス

サンコム

日本コムシスとサンコムは、社員の家族の皆さまに、自社の業務内容を知ってもらい親しんでもらうことを目的に、職場見学会を実施しています。

日本コムシスでは2016年8月19日に、東京南事業所青山TS(テクノステーション)において親子パトロールを開催し、8家族19名が参加しました。当日は小雨模様でしたが、午前中は品川港南ビルで、高所作業車搭乗体験・屋上見学・資材倉庫見学・光通信の仕組みを使用した工事を体験し、午後からは現場パトロールを行いました。また、8月26日には、ドコモ事業本部神奈川TS(テクノステーション)においても、親子パトロールを実施しました。参加した子どもたち3名は、コムシスの仕事や熱中症予防について勉強した後、基地局を見学し、近くで見る鉄塔の大きさに驚きながら安全带装着を体験しました。

サンコムでは、沖縄支店において、8月8日に社員の家族を支店に招いて職場見学会を実施しました。見学会では、UTP(Unshielded Twist Pair cable=細い導線を撚り合わせた芯線を持つケーブル)作成や正常性確認試験の体験をしたり、基地局見学に行ったりと、家族がサンコムの業務について理解を深めることができ、有意義な夏休みの一日となりました。



参加した東京南事業所  
青山TSの親子の  
皆さん(日本コムシス)



神奈川TS設備見学の  
様子(日本コムシス)

## 社員の子どもを対象にランドセルを贈呈

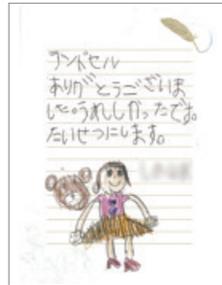
日本コムシス

サンコム

COMJO

日本コムシスでは、次世代育成の一環として小学校に入学する社員の子どもを対象にランドセルを贈呈し、次世代を担う子どもの健やかな成長を支援しています。この取り組みは30年以上前から継続して行っており、2016年度も90名の新1年生に社長のメッセージを添えてランドセルをプレゼントしました。

サンコムとCOMJOでも同様の取り組みを行っており、2016年度はサンコムでは25名、COMJOでは7名の新1年生にランドセルをプレゼントしました。



お礼のお手紙



ランドセルを贈呈

## 地元小学校に図書購入費用を寄付

日本コムシス

日本コムシスグループのコムシスエンジニアリングでは、2006年より地元への貢献施策として、特に杉並区立杉並第三小学校の児童教育推進に役立てていただきたく、毎年、図書の贈呈または購入費用の寄付を行っています。



杉並第三小学校へ図書購入費用贈呈

2016年度も同様に、2016年5月26日同校を訪問し、図書購入費用として10万円を贈呈しました。

杉並区教育委員会より、「児童の教育活動の推進に有効に活用させていただきます」とお礼の言葉をいただいています。

## さまざまな活動を通じた貢献

### 地域の子どもの安全に関する取り組み

日本コムシス

サンコム

TOSYS

日本コムシスでは、一般社団法人情報通信エンジニアリング協会と取り組んでいる「こども110番」活動をサポートしています。工事用車両に「車こども110番」のステッカーを貼ることで、工事エリアでの地域の防犯に協力しています。

サンコム四国支店では、2013年より地域の青少年健全育成を目的に、古高松地区において小中学生の通学の安全を確保するため地域住民や地元企業と協力をして子どもSOSの活動を行っており、毎年小学生からお礼のお手紙をいただいています。

また、TOSYSでも、社会貢献活動への参加意識を高めることを目的とし、工事用車両に子どもが見やすい位置にステッカーを貼り、走行中および工事中に駐車している車両に子どもが助けを求めてきた場合は、保護者や学校、警察などに連絡するといった取り組みを実施しています。



四国支店SOS看板設置状況 (サンコム)

## 水道事業のイメージアップに貢献

日本コムシス

日本コムシスの社会基盤事業本部は、2016年6月5日に開催された「TOUR OF JAPAN 東京ステージ」のフィニッシュ地点において、東京都水道局と共同でイベントブースを設置しました。会場を訪れた観客や選手に水道水のおいしさをアピールするため、ミネラルウォーターとの飲み比べや、終了後の清掃活動など、さまざまなイベント活動を行いました。雨上がりの蒸し暑い気候の中、1,000名近い方々にお越しいただき、大盛況で終了しました。

また日本コムシスは、この活動に先駆けて、春の交通安全運動期間中に、「交通安全ステッカー（眠気防止ガム・キャンディ入り）の配布」や「安全標語『のぼり旗』設置」などを行っていたこともあり、東京都水道局の2016年度水道工事イメージアップコンクールにおいて「優秀賞」を受賞しました。



東京都水道局と共同でイベントブースを設置

### 現場の声



工事をさせていただいている道路上で、このような大きな大会が行われるので、この機会に「東京の水道水もおいしいんだ」と知ってもらいたかったため企画しました。この企画で、水道水も飲料水として「身近で安全なおいしい水」であることをアピールできたことは、とてもうれしいです。

日本コムシス 社会基盤事業本部 基盤システム部  
現場代理人 原 郁馬



水道水のおいしさをアピール



水道工事イメージアップコンクールにて「優秀賞」を受賞

## ペットボトルキャップ回収

### コムシスグループ

コムシスグループ各社では、ペットボトルのキャップの回収を通じた社会貢献活動を行っています。

サンコムでは、ペットボトルのキャップ売却益をワクチン購入費に充てる認定NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会 (JVC) の活動に賛同し、支援を実施しています。

## ブックキフ活動

### 日本コムシス

日本コムシスでは、不要になった本を集めてブックオフコーポレーション株式会社に売却して寄付する「ブックキフ」活動を、2010年度から半期に一度実施しています。

2016年度にも継続して実施し、本やDVDなどの売却額9,184円を、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパンに寄付しました。



集められた本やDVD



ピースウィンズ・  
ジャパンからのお礼状

### ブックキフの実績

2014年度	2015年度	2016年度
7,725円	28,972円	9,184円

## 国境なき医師団への支援

### CSS

CSSでは、社会貢献型自動販売機を利用することにより、自動販売機業者を經由して「特定非営利活動法人国境なき医師団」への寄付をしています。

2016年度の寄付金額は、321,447円(2015年度372,216円)でした。

この金額は、はしかの予防接種なら約12,800名、難民キャンプで必要な清潔な飲料水約13,500名分に相当します。

自動販売機の設置をお願いしているお客様へは「設置費用」、ドリンクを飲んでいる皆さんには「低価格でのご提供」、そして、意識することなく自動的に「国際貢献」が実現できるWin-Win-Winが成立しています。



飲料購入を通じて金額の一部が  
寄付される自動販売機



「国境なき医師団」からの  
感謝状

## 全国各地で清掃・美化活動

### コムシスグループ

コムシスグループでは、全国各地において清掃・美化活動に力を入れています。

地域の自治体・自治会などが主催する清掃活動に積極的に参加しているほか、事業所周辺での自主的な清掃活動なども定期的に行っています。

日本コムシスの北海道支店は、サンコム、つうけんと合同で、2016年4月20日「ミニ大通西清掃会清掃活動」を開始しました。このボランティア活動は毎年、積雪のない4～10月の半年間、周辺企業の4団体で月1回の清掃活動を実施しています。

サンコムでは、2007年秋に本社を目黒区青葉台から杉並区高円寺へ移転して以来9年以上、毎週第1および第3水曜日に、本社前清掃を実施しています。また、東海支店においては2015年7月より毎月24日を清掃ボランティアの日と定め、支店周りと支店から最寄駅までの

ルートの清掃活動を始めました。地域の皆さまからもお褒めのお言葉をいただき、より一層の地域社会への貢献を目指しています。

TOSYSでは、2016年5月22日の鳥屋野潟一斉清掃(新潟)に社員と家族ら約100名が参加し、ごみ回収活動を行いました。TOSYSグループは1998年から毎年継続して参加しています。また、2016年5月21日に飯田事業所ならびに飯田サービスセンタはNTT東日本-関信越 飯田営業支店様と合同で「第23回天竜川水系環境ピクニック」に参加し、社員13名が松川上溝橋下流の河川敷のゴミ拾いを行いました。地域の豊かな自然環境を守るため、小さな輪から大きな輪に広がるよう環境意識を深め、今後も積極的に参加し、地域社会に貢献していきます。

つうけんでは、積極的に社会貢献活動に取り組むとともに、地球環境にやさしい事業活動を通して、地域社会へ貢献することを目指しています。



ミニ大通西清掃会  
清掃活動(日本コムシス、  
サンコム、つうけん)



東海支店清掃活動  
(サンコム)



鳥屋野潟清掃活動  
(TOSYS)

## 地域社会との交流

# 地域交流イベントを開催

## ドリームフェスタ2016の開催

### TOSYS

TOSYSでは、2016年7月23日、長野市真島総合スポーツアリーナ「ホワイトリング」において、通算24回目を迎えた「TOSYSグループドリームフェスタ」を開催しました。

当日は、TOSYS、COMJO社員が提供したチャリティーグッズの販売、各事業所の地域特産品販売による楽市、子ども広場など、地域の皆さまとの交流を図るイベントと、TOSYSグループ、日本コムシス、COMJO、



ドリームフェスタ・バザーの様子

炭平コンピューターシステムの社員によるスポーツ大会を開催し、グループ内の交流を図り、親睦を深めました。

本フェスタには約1,000名の地域の皆さま、社員と家族が訪れ、大盛況の中で幕を閉じました。

## 糸魚川大規模火災 災害見舞金を寄付

### TOSYS

TOSYSと日本コムシス信越事業部門は、2017年3月に新潟県糸魚川市役所を訪問し、2016年12月22日に発生した糸魚川市大規模火災災害の見舞金



糸魚川大規模火災見舞金贈呈

として、TOSYSグループドリームフェスタでのチャリティーバザー売上金およびマッチングギフト35万円を糸魚川市に寄付しました。

贈呈式では、TOSYSから「糸魚川市大規模火災災害に際して、僅かな金額ですが糸魚川市の復旧復興に役立ててほしい」と伝えるとともに、目録と見舞金を織田副市長に手渡しました。織田副市長からは「現在、瓦礫の撤去はほとんど完了しており、復興計画は8月を目処に進めているところです。この度いただいた見舞金は復旧復興に使わせていただきます」とお礼のお言葉をいただきました。

## 地域イベントを開催

### 地域の祭事への参加

日本コムシス

サンコム

TOSYS

つうけん

日本コムシスでは、2016年6月7日、恵比寿東公園（通称：タコ公園）にて芝生再生植え付けボランティア活動を行いました。近隣住民、地元企業合わせて52名が参加されコムシス青山事業所からも5名が参加しました。

サンコムでは、2016年8月27～28日の2日間、恒例となっている「第60回東京高円寺阿波おどり」に、「コムシスグループ連」として参加しました。今回で9年連続の参加となります。初日はサンコム社員の子どもを含む総勢82名の参加者が日々の練習の成果を発揮し、一体感のある踊りを披露することができました。また、2日目は、大会運営のボランティアに参加し、雨天の中、19名が会場の清掃活動を行いました。開催中に出る大量のごみは分別して換金することにより、インドの教育支援に充てられています。

TOSYSグループでは、毎年、長野市と新潟市で8月に開催される「長野びんずる」「新潟まつり」の2大祭りに多くの社員が参加し、社員や地域住民の皆さまと交流を深めています。揃いの法被や浴衣に身を包み、約100名の社員が息の合った元気な踊りを披露することができました。

つうけんでは、毎年8月に行われる「旭川夏まつり」に、地域貢献とつうけんグループの親睦を図ることを目的として、各事業所、グループ会社、OBなどの協力を得て、「大雪連合神輿」に参加しています。また、

小樽事業所は「おたる潮まつり」(7月)、釧路事業所は「くしろ港まつり」(8月)、函館事業所は「函館港まつり」(8月)など、各事業所において地元の祭りに参加しています。



芝生再生植え付けの様子(日本コムシス)



第60回東京高円寺阿波おどり(サンコム)



函館港まつり(つうけん)

### 第七回高円寺演芸まつりへの参画

サンコム

サンコムでは毎年2月に行われている「高円寺演芸まつり」に協賛しています。当日は、本社地下大会議室にて「サンコム寄席」と銘打って、落語家をお呼びし3年連続演芸大会を開催しました。

地域住民の方々や社員で会場は満員となり、大盛況のうちに幕を閉じました。地域住民の方々にサンコムを知っていただくよい機会となりました。



サンコム寄席の様子

## 外部表彰

### 表彰関連

#### コムシスグループ

コムシスグループ各社では、事業活動を通じたお客様からの表彰や、社会貢献に関わる表彰など、2016年度も多数の表彰を受けました。

#### ● 横浜国道事務所様より表彰

##### 日本コムシス

対象工事・業務併せて140件の中から、2016年度竣工した泥亀地区他電線共同溝工事が見事選出され「優良工事表彰」をいただきました。



#### ● 東京湾岸警察署様より感謝状

##### 日本コムシス

東京都水道局様発注の『品川区八潮二丁目地先から大田区東海五丁目地先間外1か所配水本管(400mm)布設替工事』にて実施した、イメージアップ活動の内容が評価され、感謝状をいただきました。



#### ● 警視庁様、東京都交通安全協会様より表彰

##### 日本コムシス

永年にわたり、交通の安全と円滑の確保に貢献したことに對し、感謝状をいただきました。



#### ● KDDI株式会社様より感謝状

##### サンコム

「NGW-PKG抜去作業」および「マイグレ撤去工事」の無事故完遂に對し、感謝状をいただきました。



#### ● 日本電気通信システム株式会社様より感謝状

##### サンコム

IT系事業拡大に伴う支援に関し、多大なる貢献を称えられ、感謝状をいただきました。



#### ● ユニアデックス株式会社様より感謝状

##### サンコム

筑邦銀行 合川パークビル 受変電設備二重化工事において、無事故で作業遅延なく切替完成させたことに對し、感謝状をいただきました。



#### ● NTT東日本 関信越長野支店様より表彰

##### TOSYS

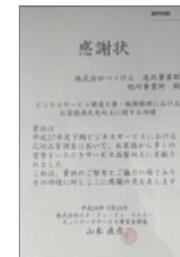
NTTサービス総合工事において、2016年度上半期における事業計画達成に貢献したとして、総合優秀エリア賞、ユーザ工事優秀エリア賞、ゼロ災害達成賞を受賞しました。



#### ● NTT-ME様より感謝状

##### つうけん

お客様満足度調査(CS調査)において評価され、感謝状をいただきました。



#### ● 北海道警察様などより表彰

##### つうけん

長年にわたる交通事故防止への取り組みが評価され、優良安全運転管理事業所として表彰されました。



#### ● NTTデータ様より感謝状

##### COMJO

日本年金機構様の「経過管理サブシステムの開発・サービス開始」に對し、感謝状をいただきました。

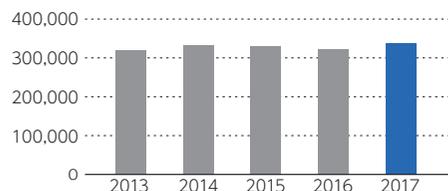


# 財務ハイライト

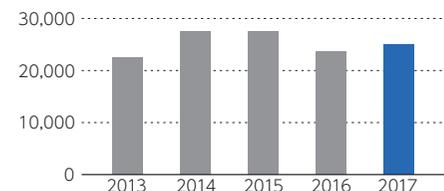
## 経営成績

	2013.3	2014.3	2015.3	2016.3	2017.3
売上高(百万円)	316,092	331,341	328,631	320,654	334,163
営業利益(百万円)	22,547	27,570	27,674	23,849	25,036
経常利益(百万円)	22,914	28,078	28,121	24,223	25,341
親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	13,284	16,389	16,767	15,420	14,485
一株当たり当期純利益(円銭)	106.82	136.08	142.72	136.75	129.96
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益(円銭)	106.4	135.34	141.90	136.18	129.52

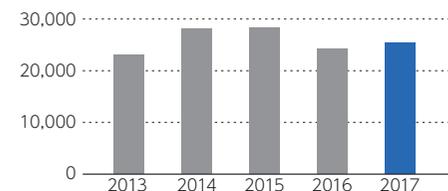
■ 売上高(百万円)



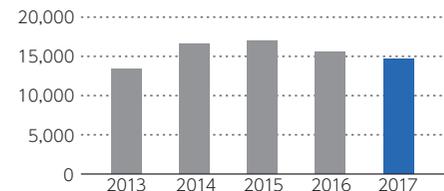
■ 営業利益(百万円)



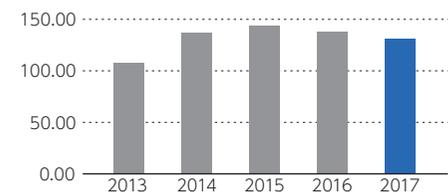
■ 経常利益(百万円)



■ 親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)



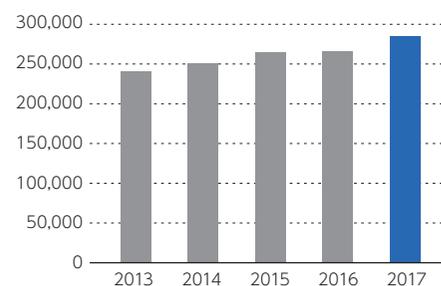
■ 一株当たり当期純利益(円銭)



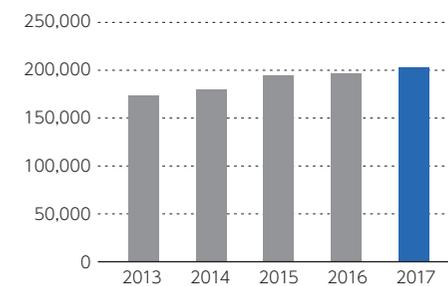
## 財政状態

	2013.3	2014.3	2015.3	2016.3	2017.3
総資産(百万円)	240,602	250,561	264,019	266,066	284,367
純資産(百万円)	173,411	179,414	194,038	196,543	202,943
自己資本比率(%)	71.6	71.1	73.0	73.4	70.9
一株当たり純資産(円銭)	1,401.05	1,514.73	1,682.70	1,764.13	1,848.33

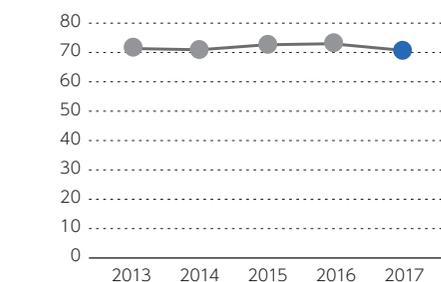
■ 総資産(百万円)



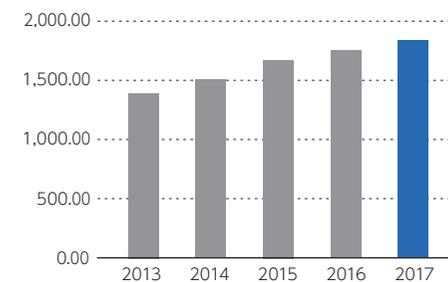
■ 純資産(百万円)



■ 自己資本比率(%)



■ 一株当たり純資産(円銭)



# コムシスグループCSRのあゆみ

1940年代	
1947年	● 三和電気興業株式会社設立
1950年代	
1951年	● 日本通信建設株式会社設立 ● 大北電建株式会社設立
1954年	● 北海道電話工事株式会社・北海道通信工事株式会社と合併
1960年代	
1960年	● 新潟電話工業株式会社設立
1961年	● 共栄工業株式会社と合併、北日本通信建設株式会社に社名変更
1967年	● ソフトウェア要員の養成開始
1968年	● 大栄通信工業株式会社と合併、三和大栄電気興業株式会社に社名変更
1970年代	
1979年	● 情報エンジニアリング部を新設。ソフトウェア開発事業を本格的に開始
1990年代	
1990年	● 日本コムシス株式会社に社名変更
1992年	● 株式会社つうけんに社名変更
1996年	● 株式会社三和エレックに社名変更
1997年	● ISO9001を組織別に認証取得 ● 信越通信建設株式会社と合併、東日本システム建設株式会社に社名変更
1998年	● ISO9001を本社および全支店で認証取得 ● テクノ電設株式会社と合併 ● ISO9001認証取得
1999年	● コムシス大宮ビルに太陽光発電システムを導入 ● ISO9001を関連会社へ拡大 ● ISO9001認証取得/ISO14001認証取得
2000年代	
2000年	● 「コンプライアンス規程」を制定
2001年	● ISO14001を全社で認証取得/ISO9001を全社・全組織に統合 ● 「コンプライアンス・マニュアル」を作成
2002年	● ISO9001登録変更/OHSAS18001認証取得 ● OHSAS18001認証取得
2003年	● 日本コムシス・三和エレック・TOSYSの3社共同の株式移転により、 純粋持株会社としてコムシスホールディングス株式会社設立 ● ISMS組織別認証取得 ● ISO14001認証取得 ● 日本コムシスの共通業務をアウトソーシングし、コムシスシェアードサービス 株式会社を設立
2004年	● ISMSを全社・全組織に拡大 ● プライバシーマーク認証取得 ● ISO14001認証取得
2005年	● 企業理念、行動指針を新たに制定 ● サンワコムシスエンジニアリング株式会社に社名変更 ● JIS Q 27001認証取得

コムシスホールディングス
 日本コムシス
 サンコム
 TOSYS
 つうけん
 COMJO
 CSS

2006年	● COHSMSを全社認証取得 ● 厚別ビルに太陽光発電システムを導入 ● プライバシーマーク認証取得
2007年	● 総務部CSR推進室を発足 ● 情報セキュリティ向上のため、ISO/IEC27001へ移行
2008年	● コムシス高円寺ビルに太陽光発電システムを導入 ● プライバシーマーク認証取得 ● 総務人事部広報・CSR推進室を発足 ● 次世代認定マーク(愛称:くるみん)取得
2009年	● 日本コムシスより情報事業を分社化し、コムシス情報システム株式会社設立 ● 総務部CSR推進室を発足 ● 総務部広報・CSR推進室に組織変更 ● 総務企画部CSR推進室を発足
2010年代	
2010年	● 本社ビルに太陽光発電システムを導入 ● 総務人事部CSR推進室を発足 ● ISO/IEC27001認証取得 ● 株式会社つうけんと株式交換により経営統合
2011年	● 次世代認定マーク(愛称:くるみん)取得
2012年	● 日本コムシスグループ再編
2013年	● 常陸太田太陽光発電所、昭和太陽光発電所、津太陽光発電所稼働 ● 衛生推進室設置
2014年	● 世田谷テクノステーションに太陽光発電システムを導入 ● 業務推進部を発足 ● 株式会社日本エコシステムの株式を取得 ● 川中島建設株式会社を完全子会社化とする経営統合 ● 北茨城太陽光発電所稼働
2015年	● 加東市屋度太陽光発電所、つくば太陽光発電所、伊賀市三田太陽光発電所、 土浦市太陽光発電所、加東市屋度大池太陽光発電所、安曇野市穂高太陽光発電所を稼働 ● 優良派遣事業者認定を取得 ● 北海道電電輸送株式会社を完全子会社化とする経営統合の実施 ● 東亜建材工業株式会社を完全子会社化とする経営統合の実施 ● 世田谷事業所に太陽光発電による電気自動車導入 ● 株式会社日本アフター工業を完全子会社化とする経営統合
2016年	● ISO9001 全社(3本部限定)に縮小 ● 五島市福江島太陽光発電所、那須塩原市太陽光発電所Bサイト・Cサイト、 安曇野太陽光発電所を稼働 ● 東京舗装工業株式会社を完全子会社化とする経営統合
2017年	● 那須塩原市太陽光発電所Aサイトを稼働 ● 株式会社カンドーを完全子会社化とする経営統合



## コムシスホールディングス株式会社

CSR推進室

〒141-8647

東京都品川区東五反田2-17-1

TEL 03-3448-7190

FAX 03-3447-3993

URL <http://www.comsys-hd.co.jp/>



環境に配慮した植物油インキ  
を使用しています。



この冊子に使用している用紙の売上の一部は、生物多  
様性を保全する活動に寄付されています。また、この紙  
を使用することで国産材の有効活用が推進されます。